

第1章 計画の概要

1 計画策定の目的

少子高齢化の進行、子どもたちの運動機会の減少による体力・運動機能の低下をはじめ、増加する高齢者世代の健康志向、ライフスタイルの多様化など、社会環境が変化する中で生涯を通じたスポーツニーズが高まっています。

伊賀市では2017（平成29）年3月に「伊賀市生涯スポーツ都市宣言」を行い、心と体の健康を育むとともに、人と人の交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るため一人ひとりが生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進しています。

また、2021（令和3）年に開催される「三重とこわか国体」では、伊賀市でハンドボール（少年女子）、軟式野球（成年男子）、サッカー（女子）、クレー射撃（成年）、剣道（全種別）などの競技が行われ、その国体の気運の高まりを契機とし、今後のスポーツ振興を図るための施設整備や施策を整えていく必要があります。

一方、2004（平成16）年11月に1市3町2村が合併し、それぞれが所有していた公共施設について、ほぼそのまま引き継ぎ、スポーツ施設においても多くの類似施設を有することになりました。

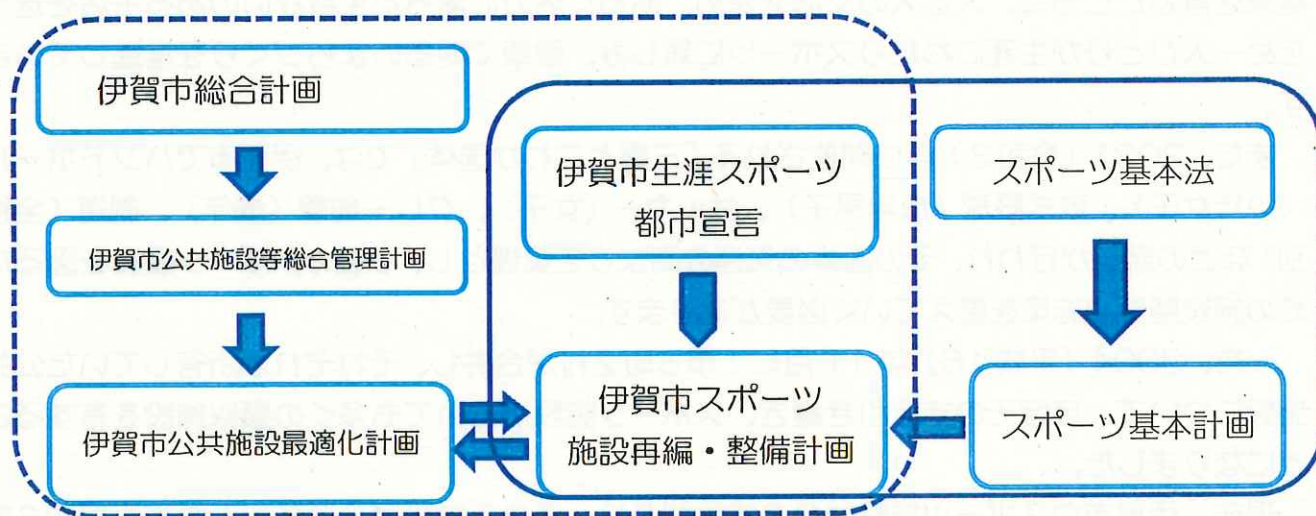
現在、伊賀市のスポーツ施設は33施設があり、そのうち設置30年以上の施設が約6割弱を占めています。今後10年間で新たに9施設が設置後30年を迎え、老朽化した施設がさらに増加することから、改修費等の増大が避けられない状況です。

このような中、市民の多様なスポーツニーズにも配慮しつつ、2015（平成27）年3月に策定された伊賀市公共施設最適化計画の方針を踏まえ、老朽化をはじめとして、規模・機能面といった既存施設の現状・課題などを把握し、誰もが、気軽に、いつでも快適に利用できる施設を整備するため、伊賀市スポーツ施設再編・整備計画を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、伊賀市生涯スポーツ都市宣言の実現に向け、「伊賀市公共施設最適化計画」を踏まえながら持続可能なスポーツ施設の運営を図るため、今後の伊賀市が管理・運営する競技専用スポーツ施設の再編と整備の指針となるものです。

なお、スポーツ施設の再編・整備にあたっては、地域の学校体育施設である市立小・中学校の施設、「ゆめドームうえの」等の県営施設や民間施設のスポーツジムやプール等の設置状況にも注視しながら実施することとします。



3 計画の期間

本計画の期間は、2021（令和3）年度から2030（令和12）年度までの10年間として、実施予定時期を前期・後期5年間とします。

ただし、社会情勢の変化や財政状況に応じて、変更が必要になったときは、その都度見直すこととします。

第2章 スポーツ施設をとりまく現状と課題

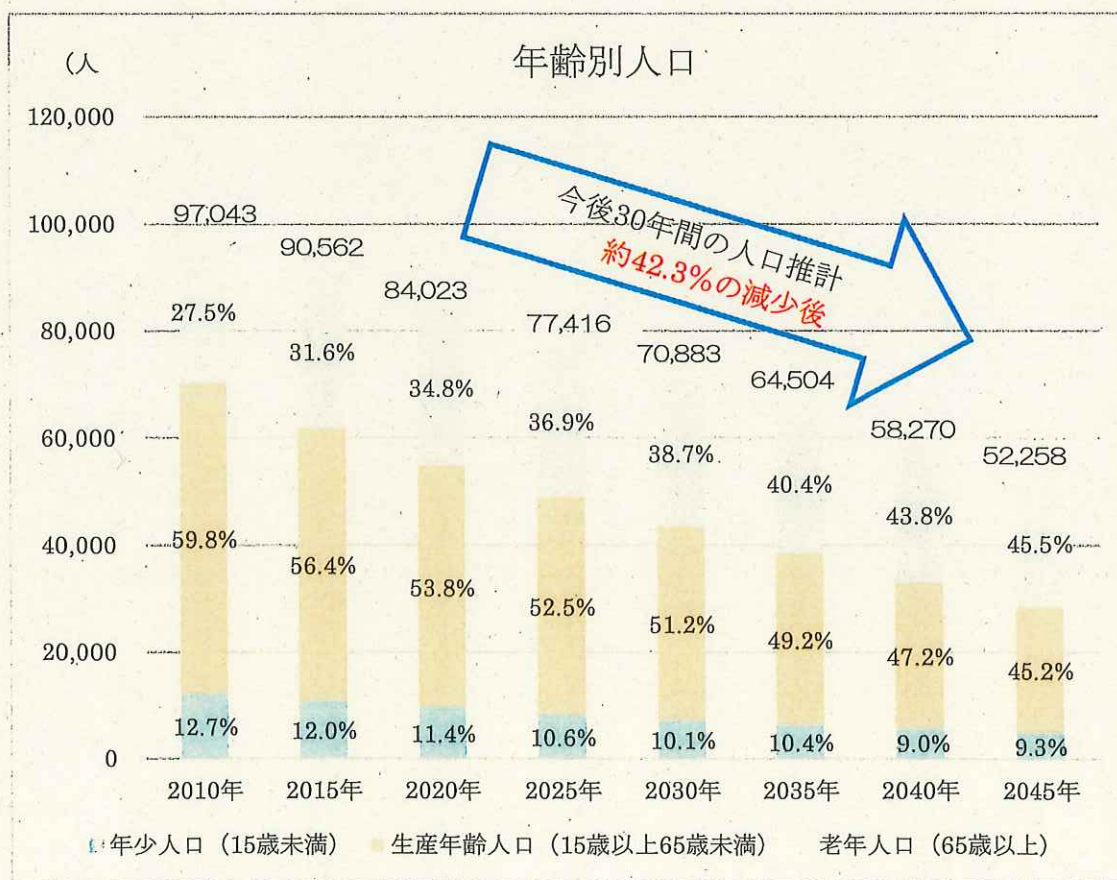
1 人口推移と人口構成

国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の地域別将来推計人口（2018年3月推計）」によると、本市の人口は、減少傾向にあり、2015（平成27）年から2045（令和27）年までの30年間に於いて、38,304人（42.3%）が減少し、約52,000人余りになると見込まれています。

年齢構成別の人口割合の推移をみると、年少人口割合と生産年齢人口割合がともに減少する中で、老年人口割合は増加で推移することから、伊賀市においても人口に占める老年人口は超高齢社会^{*}を歩む状況となっています。

※「超高齢社会」・・・65歳以上人口の割合が21%超（WHO（世界保健機関）と国連の定義による。）

（参考：「高齢化社会」・・・65歳以上人口の割合が7%超、「高齢社会」・・・65歳以上人口の割合が14%超）



<出典：国立社会保障・人口問題研究所による平成30（2018）年3月時点推計>

2 多様なスポーツニーズ

近年の少子高齢化による人口減少により、今後スポーツ実施絶対数が減少していくことが予想される一方、健康志向の高まりや従来の種目にとらわれないオリンピックでの新しい競技種目が追加されてくること、サッカーや野球など団体で行う種目以外にも、ウォーキングやジョギングなど個人で行う種目などへの多様なニーズがあります。

このため、従前の施設を活用したスポーツから、施設が無くても身近な環境を活用したスポーツへの関心も高まっています。

また、ボッチャなど障がいがあっても参加できるパラスポーツ、あるいはキンボールなど新たなルールやスタイルで行うニュースポーツやレクリエーション競技への関心も高まっています。

さらに、スポーツ実施環境としての施設だけでなく、全市民がより高い技術を間近で見ることができる「見るスポーツ」の振興を図るための施設環境整備が必要です。

3 スポーツ施設の状況

(1) スポーツ施設の状況

伊賀市内のスポーツ施設は33施設であり、その施設種別では、競技場1施設、野球場1施設、体育館6施設、多目的グラウンド10施設、テニスコート6施設、ゲートボール場3施設、水泳プール2施設、武道場1施設、弓道場1施設、艇庫2施設です。

ア 伊賀市スポーツ施設一覧

施設種別	施設番号	設置地区	施設名	築年	施設規模概要	利用者の概要
陸上競技場(1)	1	上野	上野運動公園競技場	1975	面積 13,740㎡ 400m×8レーントラック 天然芝サッカーコート1面	フィールドは、くノ一及び大会による利用
野球場(1)	2	上野	上野運動公園野球場	1963	面積 13,000㎡ 両翼 104m 中央 125m 照明設備完備、外野天然芝	少年・一般者の大会開催
体育館(6)	3	上野	伊賀市民体育館	2000	フロア面積 1,400㎡ (バレーボールコート2面)	一般利用が多い
	4	阿山	阿山 B&G 海洋センター体育館	1989	フロア面積 1,400㎡ (バレーボールコート2面)	一般利用が多い
	5	大山田	大山田 B&G 海洋センター体育館	1988	フロア面積 1,300㎡ (バレーボールコート2面)	一般利用が多い 地域小中学校利用
	6	大山田	大山田東体育館	1994	フロア面積 500㎡	地域利用が多い
	7	青山	青山児童屋内運動場	1982	フロア面積 500㎡	地域利用が多い
	8	青山	青山高尾体育館	1988	フロア面積 500㎡	地域利用が多い
多目的グラウンド(10)	9	上野	ゆめが丘多目的広場	2000	面積 12,300㎡ (サッカーコート1面) 天然芝、仮設照明設備	少年サッカーでの利用が多い
	10	上野	しらさぎ運動公園屋内多目的グラウンド	2014	面積 4,500㎡ (ゲートボール9面)	グラウンドゴルフ、ゲートボールでの利用が多い
	11	島ヶ原	島ヶ原グラウンド	2007	面積 8,500㎡ 両翼 85m (サッカー60×80m)	少年野球の練習利用が多い
	12	伊賀	いがまちスポーツセンターグラウンド	1992	面積 ㎡ (400m×8レーントラック、サッカー1面、ソフトボール2面)、照明設備	少年サッカー利用が多い。スポーツクラブの拠点。高校クラブでの利用
	13	阿山	阿山第1運動公園グラウンド	1983	面積 ㎡ (サッカーコート2面) 照明設備	少年野球、サッカーの利用が多い
	14	阿山	阿山第2運動公園グラウンド	1983	面積 ㎡ サッカーコート1面 天然芝、	少年サッカーの利用が多い
	15	大山田	大山田東グラウンド		面積 ㎡ 400m×6レーントラック サッカーコート1面 照明設備	地域利用が多い
	16	青山	青山グラウンド	1997	面積 6000㎡	少年野球、サッカーの利用が多い。高校クラブでの利用
	17	青山	青山高尾グラウンド		面積 6000㎡	地域利用が多い

	18	青山	青山矢持グラウンド		面積 6000 m ²	地域利用が多い
テニスコート (6)	19	上野	上野運動公園テニスコート	1980	コート6面、(人工芝6面) 照明設備	一般利用が多い
	20	上野	上野緑ヶ丘テニスコート	1956	コート3面、(クレー3面)	一般利用、中学校クラブでの利用
	21	上野	ゆめが丘テニスコート	1997	コート4面(人工芝4面) 照明設備	一般利用が多い
	22	伊賀	いがまちスポーツセンターテニスコート	1992	コート5面(人工芝2面、ハード3面)、照明設備	一般利用が多い
	23	阿山	阿山第1運動公園テニスコート	1983	コート2面(ハード2面)、照明設備	一般利用が多い
	24	青山	青山テニスコート		コート3面(ハード3面)	ほぼ利用が無い
ゲートボール場 (3)	25	上野	しらさぎ運動公園ゲートボール場	2014	コート2面	ほぼ利用が無い
	26	伊賀	いがまちスポーツセンターゲートボール場	1992	コート2面	ほぼ利用が無い
	27	阿山	阿山第1運動公園ゲートボール場	1989	コート2面 屋内施設	一般利用が多い
プール (2)	28	阿山	阿山 B&G 海洋センタープール	1989	一般用25m級6コース 幼児用10m×6m	夏場のみ一般開放
	29	大山田	大山田 B&G 海洋センタープール	1988	一般用25m級6コース 幼児用10m×6m	夏場のみ一般開放
武道場 (1)	30	上野	伊賀上野武道館	1983	フロア面積 1,500 m ²	一般利用が多い。自主事業での利用
弓道場 (1)	31	上野	伊賀市民弓道場	1973	9人立ち	競技団体での利用が多い
艇庫(2)	32	阿山	阿山 B&G 海洋センター艇庫	1989	倉庫 190 m ²	主に夏場一般利用
	33	大山田	大山田 B&G 海洋センター艇庫	1988	倉庫 190 m ²	主に夏場一般利用

イ 競技種目ごとの実施可能な施設

地区	施設番号	施設名称	施設			陸上競技	バレーボール	バドミントン	バスケットボール	卓球	野球	サッカー	フットサル	ソフトボール	テニス	水泳	グラウンドゴルフ	ゲートボール	その他	その他の種目名	
			屋内施設	屋外施設	照明(屋外)																
上野	1	上野運動公園競技場		●		●						●					●	●			
	2	上野運動公園野球場		●	●						●		●								
	3	伊賀市民体育館	●				●	●	●				●		●						
	9	ゆめが丘多目的広場		●	●							●						●			
	10	しらさぎ運動公園屋内多目的グラウンド	●												●		●	●			
	19	上野運動公園テニスコート		●	●										●						
	20	上野緑ヶ丘テニスコート		●											●						
	21	ゆめが丘テニスコート		●	●										●						
	25	しらさぎ運動公園ゲートボール場																	●		
	30	伊賀上野武道館	●																	●	柔道 剣道
	31	伊賀市民弓道場	●																	●	弓道
島ヶ原	11	島ヶ原グラウンド		●							●	●	●								
伊賀	12	いがまちスポーツセンターグラウンド		●	●						●	●	●				●				
	22	いがまちスポーツセンターテニスコート		●	●									●							
	26	いがまちスポーツセンターゲートボール場		●														●			
阿山	4	阿山B&G海洋センター体育館	●				●	●	●				●						●	ニュース スポーツ	
	13	阿山第1運動公園グラウンド		●	●						●	●	●				●	●			
	14	阿山第2運動公園グラウンド		●								●									
	27	阿山第1運動公園ゲートボール場	●												●			●			
	23	阿山第1グラウンドテニスコート		●	●										●						
	28	阿山B&G海洋センタープール	●													●					
	32	阿山B&G海洋センター艇庫	●																●	カヌー	
大山田	5	大山田B&G海洋センター体育館	●				●	●	●				●						●	ニュース スポーツ	
	6	大山田東体育館	●				●	●				●									
	15	大山田東グラウンド		●	●						●	●									
	29	大山田B&G海洋センタープール	●													●					
	33	大山田B&G海洋センター艇庫	●																●	カヌー	
青山	7	青山児童屋内運動場	●				●	●													

8	青山高尾体育館	●				●		●											
16	青山グラウンド		●	●	●					●	●		●				●	●	
17	青山高尾グラウンド		●	●													●	●	
18	青山矢持グラウンド		●	●													●	●	
24	青山テニスコート		●											●					

(2) スポーツ施設の配置状況

<スポーツ施設配置状況>

(3) スポーツ施設の利用状況

2019（令和元）年度の状況では、年間 10,000 人以上の利用がある施設は 9 施設、5,000 人以上 10,000 人未満が 8 施設、1,000 人以上 5,000 人未満が 5 施設、1,000 人未満が 11 施設となっています。

施設種別	施設 No.	地区	施設名	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
				(2015年度)	(2016年度)	(2017年度)	(2018年度)	(2019年度)
陸上競技場 (1)	1	上野	上野運動公園競技場	20,376	22,864	19,661	24,936	16,761
野球場 (1)	2	上野	上野運動公園野球場	11,095	10,657	10,067	10,029	8,793
体育館 (6)	3	上野	伊賀市民体育館	24,813	23,252	23,270	25,831	23,112
	4	阿山	阿山 B & G 海洋センター体育館	21,325	21,280	21,477	18,926	20,790
	5	大山田	大山田 B & G 海洋センター体育館	12,505	12,848	14,084	17,084	14,468
	6	大山田	大山田東体育館	1,472	1,482	1,191	1,769	1,228
	7	青山	青山児童屋内運動場	1,080	1,688	988	566	629
	8	青山	青山高尾体育館	722	281	266	688	724
多目的グラウンド (10)	9	上野	ゆめが丘多目的広場	14,020	17,173	12,283	9,837	8,826
	10		しらさぎ運動公園多目的グラウンド	22,691	16,607	19,076	21,040	19,191
	11	島ヶ原	島ヶ原運動広場	6,039	5,831	5,261	6,142	6,551
	12	伊賀	いがまちスポーツセンター多目的グラウンド	19,924	18,047	18,048	17,218	14,269
	13	阿山	阿山第 1 運動公園競技場	23,796	50,955	49,996	44,222	44,004
	14	阿山	阿山第 2 運動公園	7,697	8,179	7,871	13,945	12,419
	15	大山田	大山田東グラウンド	1,027	730	382	627	417
	16	青山	青山グラウンド	13,872	13,834	12,108	12,027	9,787
	17	青山	青山高尾グラウンド	711	713	524	522	475
	18	青山	青山矢持グラウンド	1,163	1,131	571	1,271	741
テニスコート (6)	19	上野	上野運動公園テニスコート	10,167	8,850	8,111	7,750	8,520
	20	上野	上野緑ヶ丘テニスコート	13,587	10,950	11,358	9,257	9,730
	21	上野	ゆめが丘テニスコート	8,355	7,493	5,952	4,974	5,212
	22	伊賀	いがまちスポーツセンターテニスコート	1,337	1,178	878	742	828
	23	阿山	阿山第 1 運動公園テニスコート	2,346	1,526	1,606	1,485	1,354
	24	青山	青山テニスコート	236	275	225	210	169
ゲートボール場 (3)	25	上野	しらさぎ運動公園ゲートボール場	—	0	0	25	6
	26	伊賀	いがまちスポーツセンターゲートボール場	705	339	160	0	20
	27	阿山	阿山第 1 運動公園屋内ゲートボール場	55,602	57,913	60,112	55,113	51,875
プール (2)	28	阿山	阿山 B & G 海洋センタープール	2,843	3,016	2,365	2,614	3,097
	29	大山田	大山田 B & G 海洋センタープール	4,527	4,411	4,474	4,437	2,717
武道場 (1)	30	上野	伊賀上野武道館	8,104	7,710	8,381	7,058	8,267
弓道場 (1)	31	上野	伊賀市民弓道場	3,677	2,091	4,115	2,899	2,288
艇庫 (2)	32	阿山	阿山 B & G 海洋センター艇庫	129	128	145	87	71
	33	大山田	大山田 B & G 海洋センター艇庫	50	92	111	195	0

<参考>市立学校体育施設利用状況

市内にある小・中学校の学校体育施設は、市民のスポーツ活動の場などとして広く開放しています。2019（令和元）年度の利用状況は、グラウンド利用が約 55,000 人、体育館利用が約 135,000 人となっています。

学校名	H29年度（2017年度）				H30年度（2018年度）				R元年度（2019年度）			
	グラウンド		体育館		グラウンド		体育館		グラウンド		体育館	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
上野東	328	14,550	570	15,423	324	13,350	601	17,696	299	12,430	581	16,760
上野西	50	2,200	472	7,504	21	905	410	7,139	23	422	277	5,494
久米	76	1,164	143	2,248	163	4,097	94	1,319	59	1,060	194	3,068
長田	198	3,311	145	2,591	149	2,318	158	2,378	141	1,883	126	1,704
新居	49	747	218	3,287	41	423	214	3,078	0	0	121	2,434
府中	93	2,873	124	2,040	110	3,034	97	1,749	71	2,095	84	1,175
中瀬	67	1,641	288	4,305	29	1,560	285	3,883	16	241	289	3,987
友生	254	10,920	380	9,046	270	12,160	330	5,039	195	11,450	248	3,967
依那古	145	3,949	182	2,083	156	5,019	149	1,738	114	3,706	111	1,696
神戸	149	2,215	88	821	91	1,445	149	1,460	134	2,183	182	1,871
成和東	190	3,765	78	1,022	195	4,078	84	1,319	171	3,495	158	2,413
成和西	117	2,093	185	3,179	128	2,056	161	3,265	127	2,067	201	4,026
三訪	61	626	104	1,370	44	678	86	1,104	23	305	62	801
柘植	12	220	104	1,924	12	237	70	1,506	2	89	51	922
西柘植	107	3,210	126	1,760	110	3,260	125	2,397	87	2,610	101	1,947
壬生野	29	581	153	2,309	5	53	71	1,196	20	286	73	1,174
玉滝	46	1,748	47	1,501	44	1,194	42	1,512	48	1,407	24	765
阿山	78	2,964	300	10,271	83	2,490	264	6,886	90	2,700	320	7,296
大山田	8	224	270	5,782	0	0	280	4,996	0	0	254	4,357
青山	81	3,150	562	12,346	73	2,210	583	12,873	83	1,972	487	11,412
小学校計	2,138	62,151	4,539	90,812	2,048	60,567	4,253	82,533	1,703	50,401	3,944	77,269
崇広	123	2,545	325	5,230	1	30	459	8,919	42	1,338	312	8,317
緑ヶ丘	0	0	403	7,526	0	0	439	8,715	0	0	426	10,007
城東	0	0	658	17,566	4	460	699	17,387	3	240	752	22,149
上野南	2	60	419	6,436	0	0	499	7,859	0	0	438	6,239
柘植	111	2,243	181	2,033	135	3,455	115	1,763	63	2,378	125	2,574
霊峰	0	0	154	2,154	1	15	150	2,764	0	0	205	2,906
島ヶ原	105	2,003	145	1,728	124	2,472	113	1,209	104	1,743	84	913
阿山	1	30	93	1,096	2	100	76	840	0	0	82	980
大山田	81	1,060	39	425	41	614	123	1,352	6	91	160	1,459
青山	0	0	296	5,389	146	2,536	128	1,607	0	0	232	3,376
中学校計	423	7,941	2,713	49,583	454	9,682	2,801	52,415	218	5,790	2,816	58,920

(4) 近隣市におけるスポーツ施設設置状況

県内及び隣接市が設置する施設数は次のとおりです。

施設あたりの人口で比較した場合、当市では2,731人となっており、施設数が多くなっていることが分かります。

また、同じ人口規模で比較した場合では、滋賀県甲賀市の約2倍となっています。

	伊賀市	名張市	亀山市	桑名市	伊勢市	いなべ市	志摩市	滋賀県 甲賀市
人口(人) R2.9.1現在	90,149	77,766	49,620	141,701	124,581	43,348	48,631	90,300
市町村 合併有無 (○)は合併数	有り (6市町村)	無し (-)	有り (1市1町)	有り (1市2町)	有り (1市3町)	有り (4町)	有り (4町)	有り (5町)
体育館	6	5	3	3	1	3	6	7
多目的グ ラウンド	10	7	4	3	7	9	3	3
サッカー 陸上	1			3				
野球場	1	1	2	6	2	3	1	
テニス	6	3	3	6	2	2	1	3
プール	2	1	2	2		2		1
ゲートボ ール	3	1	1					
その他 (武道・弓 道・艇庫等)	4	1	1	2	3	4		3
施設合計	33	19	16	25	15	23	11	17
1施設当 たり人口	2,731 人/所	4,093 人/所	3,101 人/所	5,668 人/所	8,305 人/所	1,884 人/所	4,421 人/所	5,311 人/所

4 スポーツ施設の評価

(1) 施設の評価

各スポーツ施設の現状を分析するため、①構造、②利用状況、③コスト状況の3つの側面から評価します。

なお、分析結果を元に総合的判断により、個々の施設について再編・整備を計画します。

【施設の評価の視点と評価項目】

評価の視点		評価項目
施設の構造	利用者の安全性確保及び今後の維持更新費用に大きな影響を及ぼす施設の物理的状態を表す	<ul style="list-style-type: none"> ・構造安全性 ・老朽化状況 ・バリアフリー状況
利用状況	スポーツ施設としてのサービス水準や利用ニーズの有無を表す	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率 ・1日当たりの利用者数
コスト状況	施設の維持や施設での事業運営の相対的な効率性を表す	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人当たりのコスト

① 施設の構造評価

各スポーツ施設について、安全性、老朽化状況、バリアフリー状況の3つの指標で構造面を評価します。

評価項目		A	B	C
施設の構造評価	《建築物》 建設時の耐震基準（建築基準法）によりA～Cの3類型に分類	新耐震基準により設計されている	耐震診断の結果、ある程度の耐震性を有している	旧耐震基準により設計されている
	《グラウンド等》 フェンス、照明の支柱等の劣化状況によりA～Cの3類型に分類	目視点検の結果、構造物が健全な状態と認められる。	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離が認められる	目視点検の結果、コンクリート内部に達するひび割れや欠損等が認められる
	老朽化状況 建築後の経年数によりA～Cの3類型に分類 グラウンド、テニスコートなど屋外施設は、スタンドやフェンス、ナイター照明の支柱等の構造物の老朽化状況を評価	現時点で耐用年数を半分以上残している RC（建設後20年未満） S（建設後15年未満）	耐用年数の半分が経過し、10年後には老朽化が進む RC（建設後20年～40年） S（建設後15年～30年）	耐用年数を過ぎている。または、耐用年数が近い施設 RC（建設後40年以上が経過） S（建設後30年以上が経過）
バリアフリー状況 段差への対応状況及び多目的トイレの整備状況からA～Cの3類型に分類	対応済み ○スロープ設置など段差への対応 ○多目的トイレ	多目的トイレはあるが、スロープのない段差がある。また多目的トイレはないが、スロープ設置など段差への対応がある。 ×段差への対応 ○多目的トイレ または	多目的トイレがない ×段差への対応 ×多目的トイレ	

			○段差への対応 ×多目的トイレ	
--	--	--	--------------------	--

各スポーツ施設の構造評価の結果は下表のとおりです。

構造安全性及び老朽化状況の両面で評価が低い施設については、利用者の安全性や施設機能を確保するために、抜本的な対策が必要となります。

【施設の構造評価結果表】

No.	地区	施設名称	主な機能	施設の構造評価		
				構造安全性	老朽化状況	バリアフリー状況等
1	上野	上野運動公園競技場	グラウンド	A	B	A
2	上野	上野運動公園野球場	グラウンド	A	B	B
3	上野	伊賀市民体育館	体育館	A	B	C
4	阿山	阿山 B&G 海洋センター体育館	体育館	A	B	A
5	大山田	大山田 B&G 海洋センター体育館	体育館	A	B	A
6	大山田	大山田東体育館	体育館	A	B	A
7	青山	青山児童屋内運動場	体育館	C	B	C
8	青山	青山高尾体育館	体育館	A	C	C
9	上野	ゆめが丘多目的広場	グラウンド	B	B	A
10	上野	しらさぎ運動公園屋内多目的グラウンド	グラウンド	A	A	A
11	島ヶ原	島ヶ原グラウンド	グラウンド	A	A	A
12	伊賀	いがまちスポーツセンターグラウンド	グラウンド	B	B	A
13	阿山	阿山第1運動公園グラウンド	グラウンド	B	B	B
14	阿山	阿山第2運動公園グラウンド	グラウンド	B	B	B
15	大山田	大山田東グラウンド	グラウンド	B	B	C
16	青山	青山グラウンド	グラウンド	B	B	A
17	青山	青山高尾グラウンド	グラウンド	A	C	C
18	青山	青山矢持グラウンド	グラウンド	C	C	C
19	上野	上野運動公園テニスコート	庭球場	B	B	C
20	上野	上野緑ヶ丘テニスコート	庭球場	B	B	C
21	上野	ゆめが丘テニスコート	庭球場	B	B	B
22	伊賀	いがまちスポーツセンターテニスコート	庭球場	B	B	A
23	阿山	阿山第1運動公園テニスコート	庭球場	B	B	B
24	青山	青山テニスコート	庭球場	C	C	B

25	上野	しらさぎ運動公園ゲートボール場	ゲートボール場	A	A	A
26	伊賀	いがまちスポーツセンターゲートボール場	ゲートボール場	A	B	A
27	阿山	阿山第1運動公園ゲートボール場	ゲートボール場	B	B	B
28	阿山	阿山B&G海洋センタープール	水泳場	B	B	A
29	大山田	大山田B&G海洋センタープール	水泳場	B	B	A
30	上野	伊賀上野武道館	武道館	A	C	B
31	上野	伊賀市民弓道場	弓道場	A	A	C
32	阿山	阿山B&G海洋センター艇庫	艇庫	A	C	B
33	大山田	大山田B&G海洋センター艇庫	艇庫	A	C	B

② 利用状況評価

各スポーツ施設について、稼働率、1日当たりの利用者数の2つの指標で利用状況を評価します。

【各評価項目の指標と評価類型の考え方】

評価項目		A	B	C
利用状況評価	稼働率 年間運営日数に対する実際の稼働日数（H30年度）の割合によりA～Cの3類型に分類	稼働率が8割を超える施設	稼働率が5割～8割の施設	稼働率が5割未満の施設
	1日当たりの利用者数 1日当たりの利用者数（H30年度）からA～Cの3類型に分類	1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値60超 （偏差値に関係なく利用者数10以下はC）	1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値60～40 （偏差値に関係なく利用者数10以下はC）	1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値40未満 （偏差値に関係なく利用者数10以下はC）

※偏差値=50+(その施設の1日あたりの利用者数-平均)÷標準偏差値

各スポーツ施設の利用状況評価の結果は次のとおりです。

グラウンドなどの屋外施設は、天候の影響、芝生等の養生の関係で稼働率が低い傾向にあります。

これにより目的が同一の施設でも、環境等によって利用状況に差が生じていることがわかります。

【施設の利用状況評価結果表】 ※2019（令和元）年度利用人数

競技場		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当たり の利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当たりの利 用人数種別ごとの偏 差値評価
1	上野運動公園競技場	114	31.2	C	16,761	147.0	-	
野球場		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当たり の利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当たりの利 用人数種別ごとの偏 差値評価
2	上野運動公園野球場	142	38.9	C	8,793	61.9	-	
体育館		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当たり の利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当たりの利 用人数種別ごとの偏 差値評価
3	伊賀市民体育館	345	94.5	A	23,112	67.0	58.7	B
4	阿山B&G海洋センター体育館	282	77.3	B	20,790	73.7	62.1	A
5	大山田B&G海洋センター体育館	344	94.2	A	14,468	42.1	46.1	B
6	大山田東体育館	137	37.5	C	1,679	12.3	31.0	C
7	青山児童屋内運動場	12	3.3	C	629	52.4	51.3	B
8	青山高尾体育館	14	3.8	C	724	51.7	50.9	B
多目的グラウンド		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当たり の利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当たりの利 用人数種別ごとの偏 差値評価
9	ゆめが丘多目的広場	77	21.1	C	8,826	114.6	51.3	B
10	しらすぎ運動公園多目的グラウンド	270	74.0	B	19,191	71.1	47.0	B
11	島ヶ原運動広場	123	33.7	C	6,551	53.3	45.2	B
12	いがまちスポーツセンターグラウンド	180	49.3	C	14,269	79.3	47.8	B
13	阿山第1運動公園グラウンド	124	34.0	C	44,004	354.9	74.8	A
14	阿山第2運動公園	56	15.3	C	12,419	221.8	61.7	A
15	大山田東グラウンド	56	15.3	C	654	11.7	41.2	B
16	青山グラウンド	147	40.3	C	9,787	66.6	46.5	B
17	青山高尾グラウンド	18	4.9	C	475	26.4	42.6	B
18	青山矢持グラウンド	39	10.7	C	741	19.0	41.9	B
テニスコート		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当たり の利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当たりの利 用人数種別ごとの偏 差値評価
19	上野運動公園テニスコート	313	85.8	A	8,520	27.2	55.7	B
20	上野緑ヶ丘テニスコート	201	55.1	B	9,730	48.4	69.3	A
21	ゆめが丘テニスコート	310	84.9	A	5,212	16.8	49.0	B
22	いがまちスポーツセンターテニスコート	114	31.2	C	828	7.3	42.9	B
23	阿山第1運動公園テニスコート	184	50.4	B	1,354	7.4	42.9	B
24	青山テニスコート	52	14.2	C	169	3.3	40.3	B

ゲートボール場		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当 たりの利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当 たりの利用 者数種別ご との偏差評 価
25	しらさぎ運動公園ゲートボール場	1	0.3	C	6	6.0	43.3	B
26	いがまちスポーツセンターゲートボール場	1	0.0	C	20	0.0	42.6	B
27	阿山第1運動公園屋内ゲートボール場	300	82.2	A	51,875	172.9	64.1	A
プール		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当 たりの利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当 たりの利用 者数種別ご との偏差評 価
28	阿山B&G海洋センタープー	43	11.8	C	3,097	72.0	40.0	B
29	大山田B&G海洋センタープ	37	10.1	C	2,717	73.4	60.0	A
武道館		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当 たりの利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当 たりの利用 者数種別ご との偏差評 価
30	伊賀上野武道館	289	79.2	B	8,267	28.6	-	
弓道場		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当 たりの利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当 たりの利用 者数種別ご との偏差評 価
31	伊賀市民弓道場	343	94.0	A	2,288	6.7	-	
艇庫		稼働日数 (日)	稼働率 (%)	稼働率 評価	利用者人数 (人)	稼働1日当たり の利用者人数	稼働1日当 たりの利用者数 種別ごとの偏 差値	稼働1日当 たりの利用 者数種別ご との偏差評 価
32	阿山B&G海洋センター艇庫	3	0.8	C	71	23.7	60.0	A
33	大山田B&G海洋センター艇庫	0	0.0	C	0	0.0	40.0	B

③ コスト状況評価

各スポーツ施設について、利用者1人当たりのトータルコストを比較し、相対的なコストパフォーマンスを評価します。

【各評価項目ごとの指標と評価類型の考え方】

評価項目		A	B	C
コスト状況評価	施設のトータルコスト	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値 45 未満	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値 45~55	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値 55 超
	平成 30 年度の利用者1人当たりのトータルコスト（コストパフォーマンス）からA~Cの3類型に分類			
	トータルコストは、光熱水費や建物管理委託費などの施設維持に要するコスト、職員人件費や指定管理者等人件費などの施設での事業運営に要するコストの総計			

各スポーツ施設のコスト評価の結果は下記のとおりです。利用人数が極端に少ない施設は、1人当たりの経費が高い傾向にあります。

このことから、利用人数が極端に少ない施設については、縮小方向で進め、単独施設の中でも、利用者人数の多い施設は、機能を総合公園内に移転し、その他極端に利用人数が少ない施設は縮小方向で進める必要があります。

【施設のコスト状況評価結果表】 ※2019（令和元）年度維持管理経費・利用人数

競技場		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
1	上野運動公園競技場	10,895	16,761	650	-	-

野球場		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
2	上野運動公園野球場	7,108	8,793	808	-	-

体育館		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
3	伊賀市民体育館	7,210	23,112	312	38.4	A
4	阿山 B&G 海洋センター体育館	4,716	14,468	326	39.0	A
5	大山田 B&G 海洋センター体育館	7,474	14,468	517	46.7	B
6	大山田東体育館	1,016	1,679	605	50.3	B
7	青山児童屋内運動場	496	566	876	61.3	C
8	青山高尾体育館	496	522	950	64.3	C

多目的グラウンド		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
9	ゆめが丘多目的広場	3,322	8,826	376	42.9	A
10	しらさぎ運動公園屋内多目的グラウンド	12,324	19,191	642	52.1	B
11	島ヶ原グラウンド	2,508	6,551	383	43.2	C
12	いがまちスポーツセンターグラウンド	6,993	14,269	490	46.9	B
13	阿山第1運動公園グラウンド	2,799	44,004	64	32.1	A
14	阿山第2運動公園グラウンド	4,936	12,419	397	43.7	A
15	大山田東グラウンド	678	654	1,036	65.7	C
16	青山グラウンド	6,970	9,787	712	54.5	B
17	青山高尾グラウンド	496	475	1,044	66.0	C
18	青山矢持グラウンド	496	741	669	53.0	B

テニスコート		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
19	上野運動公園テニスコート	2,669	8,520	313	44.6	A
20	上野緑ヶ丘テニスコート	1,470	9,730	151	44.3	A
21	ゆめが丘テニスコート	2,246	5,212	431	44.8	A
22	いがまちスポーツセンターテニスコート	1,998	828	2,413	48.6	B
23	阿山第1運動公園テニスコート	1,119	1,354	827	45.6	B
24	青山テニスコート	2,476	169	14,649	72.1	C

ゲートボール場		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
25	しらさぎ運動公園 ゲートボール場	137	6	22,823	60.0	C
26	いがまちスポーツセンター ゲートボール場	500	20	24,977	61.9	C
27	阿山第1運動公園 ゲートボール場	1,679	51,875	32	40.0	A

プール		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
28	阿山B&G 海洋センタープール	3,301	3,097	1,066	49.9	B
29	大山田B&G 海洋センター プール	5,232	2,717	1,926	50.1	B

武道館		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
30	伊賀上野武道館	4,101	8,267	496	—	—

弓道場		維持管理経費 (千円)	利用人数 (人)	一人当たりの 経費 (円)	偏差値	評価
31	伊賀市民弓道場	2,559	2,288	1,118	—	—

(3) 現在までの公共施設最適化計画による効果

公共施設最適化計画第Ⅰ期（2015（平成27）年度～2019（平成31）年度）の間で
廃止されたスポーツ施設の維持管理費用（平成31年度末まで累計）

施設名	廃止年度	維持管理経費（千円）
上野運動公園体育館	2016（平成28）年度	1,738
青山上津体育館	2017（平成29）年度	800
青山上津グラウンド	2017（平成29）年度	800
青山博要体育館	2017（平成29）年度	992
青山博要グラウンド	2017（平成29）年度	992
青山北部運動施設	2018（平成30）年度	1,898
上野運動公園プール	2019（平成31）年度	6,348
合計		13,568

2015（平成27）年度から2019（平成31）年度の公共施設最適化計画でのスポーツ
施設の維持管理経費の削減額は、約1,300万円です。

5 スポーツ施設再編・整備にあたっての課題

(1) 大会が開催できる施設の不足

市民が普段スポーツを楽しむ場としての施設は、学校施設を含め各地域に分散立地されています。しかし、県大会など比較的規模の大きな大会の開催では、1会場あたりの施設の大きさやコート数が不足していること、駐車場や観客席が少なく分散して大会を開催している状況です。さらに、本市を活動拠点とするスポーツチームの練習・活動等に対し、試合会場や練習会場となる施設の環境整備が求められています。

(2) 老朽化した施設の存在

設置後 30 年を経過し施設劣化による問題がある施設が多くあり、安全で快適な競技環境を提供するため、計画的に改修等を行う必要があります。

(3) 施設の質・機能の向上

今後、施設の改修等を実施していくにあたって、駐車場、会議室、更衣室、冷暖房設備などの利便設備の充実を図る必要があります。また、障がい者スポーツに対応できる施設の整備・改修やユニバーサルデザインに沿って、すべての人が一緒になってスポーツを楽しむことができる環境づくりが必要です。

さらに、2021 年をもって照明器具の水銀灯の製造や輸入等が中止（水俣条約）され、今後交換球の入手が困難になるばかりか、器具本体の修繕ができないこととなります。

このため照明器具を現在主流になっている省電力の LED タイプに計画的に更新を行っていく必要があります。

(4) 複数の類似施設・零細施設への対応

2004（平成 16）年の市町村合併により、当時の施設をそのまま引き継ぎ配置していることから、類似施設が複数存在している状況です。

また零細な施設が点在していることから、施設の状態、利用状況及び市民ニーズなどを考慮し、集約による再配置や種目用途の変更などに努める必要があります。

(5) 他目的利用の現状

体育施設の中には災害時の避難所となっている施設があり、再編にあたっては考慮する必要もあります。

【拠点避難所】

大山田東体育館、青山児童屋内運動場、青山高尾体育館

【指定避難所】

伊賀上野武道館、阿山 B & G 海洋センター、大山田 B & G 海洋センター、

【ヘリポート】 上野運動公園野球場、上野運動公園競技場、ゆめが丘多目的広場、
 いがまちスポーツセンターグラウンド、大山田東グラウンド、
 阿山第一運動公園、大山田B&G海洋センター駐車場、
 青山グラウンド、青山高尾グラウンド、青山矢持グラウンド

(6) 利用者サービスの充実

個々の施設が十分に利用されていない要因の一つとして、利用者が「いつでも」、「どこでも」施設の空き状況を確認し、すぐ予約出来る環境が整っていないことが挙げられます。

このため、インターネットを活用するなど利用者目線に立って利用環境の整備をする必要があります。

また、近年では、近隣で快適に気軽にスポーツを行うニーズに加え、ポッチャやキンボール等のレクリエーション的な種目の普及がなされてきていること、新たにオリンピック種目になったスケートボードや^(注)BMX など若年を中心としたスポーツにも関心が高まっています。

さらに、個々の競技能力を高めることや生涯スポーツとしてのニーズもあり、スポーツ教室の開催等を行う必要もあります。

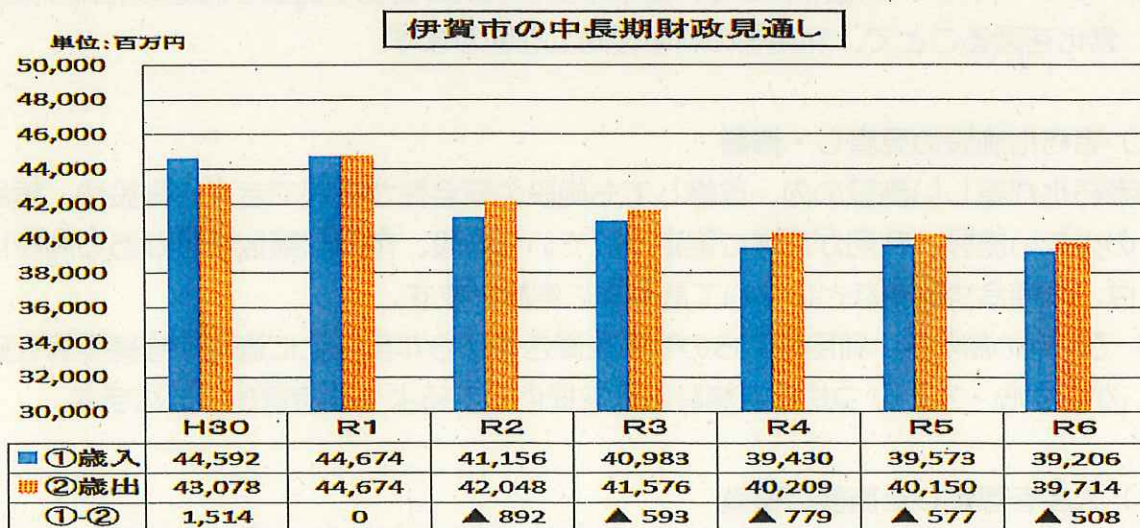
(注) BMX とは Bicycle Motocross (バイシクルモトクロス) の略。自転車競技の一種でレースとフリースタイル (ジャンプや走破性などの技を競う) で構成。

(7) 厳しい財政状況

伊賀市においても少子高齢化や税収入の減少等により、厳しい財政状況となっています。

中期財政見通しによる2019(令和元)年度と2024(令和6)年度を比較すると予算総額が年々減少するとともに、歳入が歳出を下回っている状況です。

このため、現在あるスポーツ施設を現状のまま維持管理することは非常に困難なことから、類似施設の統廃合や多用途への変更や再編をする必要があります。



※平成30年度は決算額、令和元年度は当初予算を基本とし、算出しています。

※繰越事業については数値に含まれていません。

第3章 施設再編・整備の基本方針

1 施設再編・整備の基本的な考え方

本市のスポーツ施設は、市町村合併により同種で小規模な施設を多く有することになり、市民を対象とした大会や、より高い技術を間近で見られる大会の開催ができない状況にあります。また、老朽化した施設が多く、利用が少なく効率的な運営ができていないものなど、現状の施設は多くの課題を有しています。

このような中、市民が安心・安全にスポーツを気軽に楽しめる環境づくりや、快適にスポーツを観戦できる環境づくり、更にはスポーツによる交流人口の拡大に向けた施設の整備を進めていく必要があります。また、市民アンケートにもあるように、十分な駐車場があり、多種類の施設を集中配置した総合運動公園も検討する必要があります。

施設整備を進めるにあたっては、「老朽化状況」「利用状況」「機能別・地域別施設数」「他目的利用の現状」等のさまざまな視点と、アンケート調査の結果や利用者ニーズ、更には「伊賀市公共施設最適化計画」も踏まえつつ、目指すべき施設整備の方向性を定めて進めていきます。

2 基本方針

(1) 市民が利用しやすい施設・設備の整備

- ① 日常的なスポーツ利用に支障のないような機能維持に努めます。
- ② 誰もが快適かつ気軽にスポーツができる環境づくりや、障がい者スポーツの推進に向け、ユニバーサルデザインの導入など付帯機能の充実に努めます。
- ③ インターネットの活用などで、施設の空き状況の確認や施設予約等の利用手続きの簡素化を図ることで、利用者の利便性向上を図ります。

(2) 老朽化施設の見直し・修繕

- ① 老朽化が著しい施設の内、改修しても施設の安全性が確保できない施設や、極めて利用の少ない施設、利用が地域に限定されている施設、市内に類似施設がある施設については、統廃合や転用などについて計画的に実施します。
- ② その他の施設は、利用者からの意見を聞きながら年度ごとに適正な修繕予算を確保しながら安心・安全かつ快適な施設環境を提供できるよう維持管理に努めます。

(3) 大会を想定した施設の整備

市民大会など比較的規模の大きな大会が開催できるよう、駐車場や観覧席などの設備の設置を検討するほか、類似施設の統廃合により機能の集中化や充実に努めます。

さらに、このような大会に市民が「参加」・「見る」ことにより臨場感あふれる感動を直
近で味わえるよう、施設の充実を図ります。

(4) 新たな施設の整備

施設の規模や機能において、利用者ニーズに対応できず、今後の安定的な共用がで
きないと思われるものについては、新たな施設の整備に向け取り組みます。

3 施設再編・整備計画

(1) 用途別の方向性

スポーツ施設再編計画基本計画の「基本的な考え方」に基づき用途別の方向性を示します。

① 競技場

上野運動公園競技場は、市内唯一の陸上競技施設であるため維持管理を継続します。

② 野球場

上野運動公園野球場は、市内唯一の野球場施設であるため維持管理を継続します。

③ 体育館

体育館は、市民体育館、阿山 B&G 海洋センター体育館、大山田 B&G 海洋センター体育
館を屋内における多目的スポーツ活動拠点施設と位置付け、維持管理を継続します。一
方、学校廃校による体育館については縮小・廃止とします。

また、現在の学校体育館は、引き続き施設開放を行うこととし、より快適な利用につ
いて教育委員会と検討します。

さらに、大規模な大会等は、「三重県立ゆめドームうえの」の利用の検討も視野にいれま
す。

④ 多目的グラウンド

多目的グラウンドは、屋外における多目的スポーツ活動拠点施設であることから、維持
管理を継続します。一方、学校廃校によるグラウンドについては縮小・廃止とします。

また、現在の学校グラウンドは、引き続き施設開放を行うこととし、より快適な利用に
ついて教育委員会と検討します。

⑤ テニスコート

市内にある6つのテニスコートのうち、老朽化や利用者が少ない施設、学校事業での
活用が多いテニスコートは縮小・廃止します。

また、立地環境から機能移転が望ましいコートは他施設へ機能移転を行います。

⑥ ゲートボール場

市内にある3つのゲートボール場のうち、老朽化や利用者が少ない施設は、縮小・廃止、または他用途への変更を行います。

⑦ プール

プール施設は、(公財) B&G 財団の助成を活用しながら必要な修繕を実施し維持管理を継続します。またソフト面から水泳教室等の開催について検討を行います。

⑧ 武道場・弓道場

伊賀上野武道館は、市内唯一の武道施設で、既に耐用年数を経過していますが利用率が高いことから、その機能を維持しつつ移転・改築を検討します。

また、弓道場については、必要な修繕を実施し維持管理を継続します。

⑨ 艇庫

艇庫は、阿山 B&G 海洋センタープールと大山田 B & G 海洋センターに付随する2施設であり、(公財) B&G 財団の助成を活用しながら必要な修繕を実施し維持管理を継続します。

(2) 個別施設の方向性

各評価に基づき、各施設の方向性については、次のとおりとします。

方向性	方向性の内容
継続	概ね現状の機能を維持するため、必要な維持修繕を行う
縮小・廃止	維持修繕を減少し、廃止(移管・移転を含む)を行う
多用途化	多用途への変更を行う
機能移転	現状の機能を継続させるため、他所へ移転する

1 上野運動公園競技場

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	B	RC造 建築後の経過年数 20年 \leq 22年 \leq 40
バリアフリー状況	A	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	C	50 $>$ 37.3 (%)
1日当たりの利用者数	-	(1日当たりの利用人数 183.4人)
コスト状況	-	利用者1人当たりのコスト 339円/人

【方向性】 継続

市中心部に立地し利便性に優れています。

400m \times 8レーンのトラックを備えているものの、土質で非公認競技場のため利用は多く

ありません。フィールドは、天然芝でサッカー、グラウンド・ゴルフに利用されており、今後も日常的管理を行い必要な修繕も実施していきます。

また、プロ化を目指している地元クラブ伊賀FCくノー三重のホームグラウンドであることから、プロ基準準拠における施設改修の可能性において検討を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① シャワー・ロッカー室改修工事	③ 陸上トラック路盤改修工事
② 観客席環境整備工事	女子サッカープロ化施設基準の検討

2 上野運動公園野球場

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	B	RC造 建築後の経過年数 20年 \leq 23年 \leq 40
バリアフリー状況等	B	段差対応なし/多目的トイレあり
稼働率	C	50 $>$ 43 (%)
1日当たりの利用者数	-	(1日当たりの利用人数 63.9人)
コスト状況	-	利用者1人当たりのコスト 843円/人

【方向性】継続

市内唯一の野球専用球場で、2021（令和3）年開催の「三重とこわか国体」の軟式野球会場とされ、全国レベルの大会を開催することができる施設です。このため日常的管理を行い必要な修繕を実施します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① ダグアウト改修工事	② 照明機器 LED 化改修工事
	③ 内野不陸養生工事

3 伊賀市民体育館

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	B	S 建築後の経過年数 15≤20年≤30
バリアフリー状況	C	段差対応なし/多目的トイレなし
稼働率	A	97.8>80 (%)
1日当たりの利用者数	A	63.0>60 (1日当たりの利用者数72.4人)
コスト状況	A	41.9<45 利用者1人当たりのコスト 327円/人

【方向性】 継続

構造安全性を満たすとともに、市中心部に立地し、利用者数及びコスト面での評価が高くなっています。競技可能コートも、バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（4面）、バスケットボールコート（2面）を取ることが可能で他の種目への汎用性も高くなっています。屋内スポーツ活動の拠点施設であることから日常管理を実施していきます。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
照明機器 LED 化改修工事	

4 阿山B&G海洋センター体育館

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	B	RC 建築後の経過年数 20≤31年≤40
バリアフリー状況	A	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	A	83.3>80 (%)
1日当たりの利用者数	B	40≤54.4≤60 (1日当たりの利用者数 62.3人)
コスト状況	A	38<45 利用者1人当たりのコスト 223円/人

【方向性】 継続

隣接する第1・2運動公園グラウンド及びB&G海洋センタープール、テニスコートと一体となる総合スポーツセンターで、B&G財団から青少年健全育成の観点から整備後に移管された施設でもあります。

構造安全性を満たすとともに、稼働率、コスト面での評価が高くなっています。競技可能コートも、バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（3面）、を取ることが可能で他種目への汎用性も高く、屋内スポーツ活動の拠点施設であることから日常管理を実施していきます。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であり、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用も検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 照明機器 LED 化改修工事	② トレーニングルーム器具整備事業

5 大山田B&G海洋センター体育館

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	B	RC 建築後の経過年数 $20 \leq 32 \text{年} \leq 40$
バリアフリー状況	A	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	A	$97.5 > 80$ (%)
1日当たりの利用者数	B	$40 \leq 49.6 \leq 60$ (1日当たりの利用者数 48.0人)
コスト状況	B	$45 \leq 46.0 \leq 55$ 利用者1人当たりのコスト 438円/人

【方向性】継続

構造安全性を満たすとともに、稼働率、コスト面での評価が高くなっています。競技可能コートも、バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（3面）、を取ることが可能でこれ種目への汎用性も高くなっています。

また、B&G財団で青少年健全育成の観点から整備後に移管された施設であることから、各種スポーツ教室の充実を図りながら日常管理を行い必要な修繕も実施していきます。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 照明機器 LED 化改修工事	② トレーニングルーム器具整備事業

6 大山田東体育館（旧大山田東小学校体育館）

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	B	S 建築後の経過年数 $15 \leq 26 \text{年} \leq 30$
バリアフリー状況	A	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	C	$50 > 35.6$ (%)
1日当たりの利用者数	C	$30.6 < 40$ (1日当たりの利用者数 13.6人)
コスト状況	B	$45 \leq 47.1 \leq 60$ 利用者1人当たりのコスト 470円/人

【方向性】縮小・廃止

構造安全性を満たしているものの、稼働率や利用者数での評価が低くなっています。通常利用は地域住民が多く柔軟な利用を図るうえでも地域への移管を行ないます。

7 青山児童屋内運動場（旧矢持小学校体育館）

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	旧耐震基準
老朽化状況	B	R C 建築後の経過年数 20≦38年≦40
バリアフリー状況	C	段差対応なし/多目的トイレなし
稼働率	C	50>3.3 (%)
1日当たりの利用者数	B	40≦49.1≦60 (1日当たりの利用者数 47.2人)
コスト状況	C	55<62.1 利用者1人当たりのコスト 876円/人

【方向性】 縮小・廃止

構造安全性を満たしておらず、構造安全性や利用者数、コスト面での評価が低くなっています。

通常の利用は地域住民が多く柔軟な利用を図るうえでも地域への移管を行ないます。

なお、老朽化が激しいため地域住民との協議により利用に耐えられない際には、解体も視野に検討をおこないます。

8 青山高尾体育館

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	C	S 建築後の経過年数 32年>30
バリアフリー状況	C	段差対応なし/多目的トイレなし
稼働率	C	50>3.8 (%)
1日当たりの利用者数	B	40≦50.2≦60 (1日当たりの利用者数 49.1人)
コスト状況	C	55<64.8 利用者1人当たりのコスト 950円/人

【方向性】 縮小・廃止

構造安全性を満たしているものの、稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は地域住民が多く柔軟な利用を図るうえでも地域への移管を行ないます。

9 ゆめが丘多目的広場

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	暗渠排水が機能していない、水はけが悪く自然芝環境が悪い。
バリアフリー状況	A	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	C	50>22.7 (%)
1日当たりの利用者数	B	60≧51.1≧40 (1日当たりの利用人数118.5人)
コスト状況	B	45≦46.7≦55 利用者1人当たりのコスト 411円/人

【方向性】 継続

成人用サッカーコートが確保できる施設で、付随施設であるトイレや駐車場もバリアフリー化対応です。稼働率が低いもののコスト面では構造物がないため低くはありません。利用時には、上野運動公園競技場が芝生養生のため、利用制限がある中、交互にサッカーを中心とした競技が行えるよう人工芝化も検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① グラウンド暗渠排水・人工芝化工事	② 防球ネット改修工事 ③ 照明機器LED化改修工事

10 しらさぎ運動公園多目的グラウンド

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	A	S 建築後の経過年数 5年<15
バリアフリー状況	A	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	A	82.7>80 (%)
1日当たりの利用者数	B	60≥46.4≥40 (1日当たりの利用者数69.7人)
コスト状況	B	45≤50.6≤55 利用者1人当たりのコスト 555円/人

【方向性】 継続

全天候型の屋内施設で、各評価項目も高く、必要な修繕を実施しながら日常管理を行っていきます。

11 島ヶ原運動広場

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造物が健全な状態と認められる。
老朽化状況	A	特に老朽化は認められない。
バリアフリー状況	A	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	C	50>37.8 (%)
1日当たりの利用者数	B	60≥43.9≥40 (1日当たりの利用者数44.5人)
コスト状況	B	45≤46.4≤55 利用者1人当たりのコスト 401円/人

【方向性】 継続

利用は休日における少年野球チームの練習にほぼ特化され、利用者数やコスト状況は若干劣りますが、グラウンドのみの施設であり、構造や老朽化評価には問題はなく、今後も大規

模な修繕は不要のため継続とします。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① グラウンド不陸養生工事	

12 いがまちスポーツセンターグラウンド

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	テニスコートの照明施設の劣化が進んでいる。
バリアフリー状況	A	段差対応あり／多目的トイレあり
稼働率	B	$80 \geq 55.1 \geq 50$ (%)
1日当たりの利用者数	B	$60 \geq 47.9 \geq 40$ (1日当たりの利用者数85.7人)
コスト状況	B	$45 \leq 50.6 \leq 55$ 利用者1人当たりのコスト 399円/人

【方向性】継続・多用途化

いがまち地域のスポーツの拠点施設で各項目の評価は平準化しています。

旧伊賀町で設置された総合運動公園の一部であり、周囲に人家もなく名阪国道からのアクセスは良く駐車場も広い。現在、高校のソフトボール部の練習の需要が増加していることから、必要な備品等を整備し、多目的利用を図ることとします。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① ソフトボール防球ネット器具配備 ② 照明機器 LED 化改修工事 ③ グラウンド暗渠排水改修工事

13 阿山第1運動公園グラウンド

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	キューピクルの劣化が進んでいる。
バリアフリー状況	B	段差対応あり／多目的トイレなし
稼働率	C	$50 > 34.5$ (%)
1日当たりの利用者数	A	$73.5 > 60$ (1日当たりの利用人数351人)
コスト状況	A	$37.6 < 45$ 利用者1人当たりのコスト 76円/人

【方向性】 継続

利用者数、コスト面での評価が高い。隣接する第2運動公園グラウンド及びB&G海洋センターと一体となる総合スポーツセンターです。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であり、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用も検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	照明機器 LED化改修工事

14 阿山第2運動公園グラウンド

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	防球ネットに老朽化がみられる。
バリアフリー状況	B	段差対応あり/多目的トイレなし
稼働率	C	50>15.3 (%)
1日当たりの利用者数	B	63.7>60 (1日当たりの利用者数249.0人)
コスト状況	A	37.2<45利用者1人当たりのコスト 61円/人

【方向性】 継続

隣接する第1運動公園グラウンド及びB&G海洋センターと一体となる総合スポーツセンターであり、コスト面での評価が高い。

また、天然芝による成人用サッカーコートが整備されており、上野運動公園競技場が芝養生の関係上、利用制限がある中、ゆめが丘多目的広場と併せ、交互にサッカーを中心としたフィールド競技を行うことができるよう人工芝化も視野に継続します。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であり、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用も検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
照明機器設置工事	

15 大山田東グラウンド（旧大山田東小学校グラウンド）

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	照明施設の劣化が進んでいる。
バリアフリー状況	C	段差対応なし／多目的トイレなし
稼働率	C	50 > 16.4 (%)
1日当たりの利用者数	B	40 ≤ 40.7 ≤ 60 (1日当たりの利用者数 10.5人)
コスト状況	C	55 < 71.6 利用者1人当たりのコスト 1,326円/人

【方向性】縮小・廃止

稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は地域住民が多くフレキシブルな利用を図るうえでも地域への移管を行ないません。

16 青山グラウンド

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	照明施設の劣化が進んでいる。
バリアフリー状況	A	段差対応あり／多目的トイレあり
稼働率	C	50 > 40.5 (%)
1日当たりの利用者数	B	60 ≥ 47.5 ≥ 40 (1日当たりの利用人数 81.3人)
コスト状況	C	55 < 55.8 利用者1人当たりのコスト 746円/人

【方向性】継続・多用途化

青山地域のスポーツの拠点施設であるが、地域中心地からは遠く稼働率、コスト状況は低い傾向にあります。

このため、当面グラウンド機能は当面継続しつつも、多用途機能の付加を検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> 多用途機能の検討 </div>	① 照明機器 LED 化改修工事

17 青山高尾グラウンド（旧高尾小学校グラウンド）

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	特別な構造物がない。
老朽化状況	A	特に老朽化はみられない。
バリアフリー状況	C	段差対応なし/多目的トイレなし
稼働率	C	50>4.9 (%)
1日当たりの利用者数	B	10>1.4人(1日当たりの利用者数 29.0人)
コスト状況	C	40≤42.4≤60 利用者1人当たりのコスト 948円/人

【方向性】縮小・廃止

稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は、地域住民が多く柔軟な利用を図るうえでも地域への移管を行いません。

18 青山矢持グラウンド (旧矢持小学校グラウンド)

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	特別な構造物がない。
老朽化状況	A	特に老朽化はみられない。
バリアフリー状況	C	段差対応なし/多目的トイレなし
稼働率	C	50>10.7 (%)
1日当たりの利用者数	B	40≤42.8≤60 (1日当たりの利用者数 32.6人)
コスト状況	B	45≤46.2≤60 利用者1人当たりのコスト 390円/人

【方向性】縮小・廃止

稼働率や利用者数での評価が低くなっています。

通常の利用は、地域住民が多く柔軟な利用を図るうえでも地域への移管を行いません。

19 上野運動公園テニスコート

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	部分的にコートがすり減り、つまづき易い。
バリアフリー状況	C	段差対応なし/多目的トイレなし
稼働率	A	89.6>80 (%)
1日当たりの利用者数	B	60≥55.1≥40 (1日当たりの利用者数23.7人)
コスト状況	A	45>41.5 利用者1人当たりのコスト 332円/人

【方向性】機能移転

稼働率とコスト状況は高いものの、住宅地に立地しているため夜間照明やボールの越境などによる苦情が寄せられることもあります。

また、武道館と運動公園に隣接しているものの専用管理事務所を設けていることから、一括管理できる他施設(いがまちスポーツセンターを想定)へ機能移転と集約を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 機能移転後の解体工事	

20 上野緑ヶ丘テニスコート

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	コート支柱に錆などの劣化がみられる。
バリアフリー状況	C	段差対応なし/多目的トイレなし
稼働率	B	80 ≥ 58.4 ≥ 50 (%)
1日当たりの利用者数	A	69.5 > 60 (1日当たりの利用人数43.5人)
コスト状況	A	45 > 38.8 利用者1人当たりのコスト 40円/人

【方向性】 縮小・廃止

評価各項目は低くはないものの、伊賀市立緑ヶ丘中学校テニスコートと隣接しています。

施設への進入路は狭く、また専用駐車場も完備されていません。利用形態は学校授業やクラブ活動での利用が多いことから教育委員会へ移管を検討します。

21 ゆめが丘テニスコート

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	人工芝コートに劣化あり
バリアフリー状況	B	段差対応なし/多目的トイレあり
稼働率	A	88.5 > 80 (%)
1日当たりの利用者数	B	60 ≥ 49.1 ≥ 40 (1日当たりの利用者数15.4人)
コスト状況	A	45 > 43.9 利用者1人当たりのコスト 591円/人

【方向性】 継続

各項目において極端に劣るものはなく、稼働率も高くなっています。周囲に人家もなく都市公園施設の一角に設置され立地環境が良いため、日常管理を行い継続します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① コート人工芝改修工事	③ 休憩用あずまや設置工事
② 照明機器 LED 化改修工事	④ コート人工芝改修工事

22 いがまちスポーツセンターテニスコート

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	テニスコートの照明施設の劣化が進んでいる。
バリアフリー状況	A	段差対応あり／障がい者用トイレあり
稼働率	C	40≧32.1 (%)
1日当たりの利用者数	B	60≧45.4≧40 (1日当たりの利用者数47.2人)
コスト状況		利用者1人当たりのコスト 円/人

【方向性】 継続

旧伊賀町で設置された総合運動公園の一部であり、周囲に人家もなく名阪国道からのアクセスは良く駐車場も広がっています。

各評価項目で極端に劣るものはなく、バリアフリー度も高くなっています。現在5面のコートがありますが、増設によりトータル10面程度のコート設置が可能であることから他コートからの機能移転を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 既存コート人工芝改修工事 ② 集約コート増設工事 ③ 照明機器LED化改修工事	④ 人工芝改修工事

23 阿山第1グラウンドテニスコート

【評 価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	キューピクルの劣化が進んでいる。
バリアフリー状況	B	段差対応あり／障がい者用トイレなし
稼働率	B	80≧55.6≧50 (%)
1日当たりの利用者数	C	46.5>60 (1日当たりの利用人数4.1人)
コスト状況		利用者1人当たりのコスト 円/人

【方向性】 継続

隣接する第1・第2運動公園グラウンド及びB&G海洋センターと一体となる総合スポーツセンターであり、コスト面での評価が高くなっています。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であり、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用も検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① コート人工芝改修工事	② 照明機器LED化改修工事 ③ コート人工芝改修工事

24 青山テニスコート

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	目視点検の結果、コンクリート内部に達するひび割れや欠損等が認められる。
老朽化状況	C	コートの老朽化が著しい。
バリアフリー状況	B	段差対応あり/多目的トイレなし
稼働率	C	50 > 16.7 (%)
1日当たりの利用者数	C	10 > 3.4人 (1日当たりの利用者数 3.4人)
コスト状況	C	55 < 64.1 利用者1人当たりのコスト 2,775円/人

【方向性】縮小・廃止

全ての項目で劣っていることから廃止し、敷地については売却若しくは隣接の青山中学校の駐車場として移管します。

25 しらさぎ運動公園ゲートボール場

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	特別な構造物がない。
老朽化状況	A	開設から5年と新しい施設である。
バリアフリー状況	A	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	C	50 ≥ 0.3 (%)
1日当たりの利用者数	B	60 ≤ 44.6 ≤ 40 (1日当たりの利用人数25人)
コスト状況	C	60.0 > 55 利用者1人当たりのコスト 5,193円/人

【方向性】用途変更

利用がほぼ無い状態であることから、多用途への変更を行ないます。

26 いがまちスポーツセンターゲートボール場

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	特別な構造物がない。
老朽化状況	B	テニスコートの照明施設の劣化が進んでいる。
バリアフリー状況	A	段差対応あり/障がい者用トイレあり
稼働率	C	50 ≥ 0 (%)
1日当たりの利用者数	B	40 ≥ 23.9 ≥ 0 (1日当たりの利用者数0人)
コスト状況		利用者1人当たりのコスト 円/人

【方向性】用途変更

利用がほぼ無いことから、用途変更（テニスコート、休憩所等）を行います。

27 阿山第1運動公園屋内ゲートボール場

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離がみとめられる。
老朽化状況	B	キューピクルの劣化が進んでいる。
バリアフリー状況	B	段差対応あり/障がい者用トイレなし
稼働率	A	80 > 87.7 (%)
1日当たりの利用者数	A	99.4 > 60 (1日当たりの利用人数121.2人)
コスト状況		利用者1人当たりのコスト 円/人

【方向性】継続

ゲートボールやグランドゴルフなどに加え、全天候型の屋内施設であり構造安全性、稼働率での評価が高く、各種イベントでの利用もあることから継続とします。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であり、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用も検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
	① 照明器具 LED 化工事 ② 人工芝張替工事

28 阿山B&G海洋センタープール

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	A	RC 建築後の経過年数 20 ≤ 31年 ≤ 40
バリアフリー状況	A	段差対応あり/障がい者用トイレあり
稼働率	C	50 > 10.7 (%)
1日当たりの利用者数	C	48.8 > 60 (1日当たりの利用者数7.2人)
コスト状況		利用者1人当たりのコスト 円/人

【方向性】継続

夏期限定運用施設であるが、公用施設として市内には大山田B&G海洋センタープールと2か所しかないため、日常管理を行い継続します。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であり、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用も検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 躯体防錆塗装工事、 ② 照明機器 LED 化改修工事	③ 濾過・塩素注入機器更新工事

29 大山田B&G海洋センタープール

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	A	RC 建築後の経過年数 $20 \leq 32 \text{年} \leq 40$
バリアフリー状況	A	段差対応あり/障がい者用トイレあり
稼働率	C	$50 > 13.2$ (%)
1日当たりの利用者数	B	$51.3 > 60$
コスト状況		利用者1人当たりのコスト 円/人

【方向性】継続

夏期限定運用施設であるが、公用施設として市内には大山田B&G海洋センタープールと2か所しかないため、日常管理を行い継続します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
① 躯体防錆塗装工事、 ② 照明機器 LED 化工事	③ 濾過・塩素注入機器更新工事

30 伊賀上野武道場

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	C	S 建築後の経過年数 $37 \text{年} \geq 30$
バリアフリー状況	B	段差対応なし/多目的トイレあり
稼働率	A	$80.5 > 80$ (%)
1日当たりの利用者数	-	(1日当たりの利用者数24.0人)
コスト状況	-	利用者1人当たりのコスト 417円/人

【方向性】 継続

構造安全性、稼働率、コスト状況については評価が高い一方、施設の老朽化が非常に進行しています。また当該施設は市内唯一の武道場でもあり、弓道場と併せ継続し総合的な武道場として改築の検討を行います。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
改築の検討	

31 伊賀市民弓道場

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	A	S 建築後の経過年数 2年<15
バリアフリー状況	C	段差対応なし/多目的トイレなし
稼働率	A	99.7>80 (%)
1日当たりの利用者数	-	(1日当たりの利用者数8.0人)
コスト状況	-	利用者1人当たりのコスト 834円/人

【方向性】 継続

構造安全性・老朽化状況についての評価が高い。利用者数は少ないものの唯一の弓道場であり稼働率も高いため、日常管理を行い継続します。

32 阿山B&G海洋センター艇庫

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	C	S 建築後の経過年数 31年>30
バリアフリー状況	B	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	C	50>1.1 (%)
1日当たりの利用者数	B	40≤40.0≤60 (1日当たりの利用者数 21.8人)
コスト状況	-	利用者1人当たりのコスト 663円/人

【方向性】 継続

カヌー等を格納する施設であるため、当面倉庫機能として継続します。

また、近隣には道の駅や農業観光施設、文化センターも整備され、名阪国道や新名神高速道路からのアクセスも容易であり、ソフト面でのスポーツツーリズム等の利用も検討します。また、ソフト面で各種教室の定期開催について検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）

33 大山田B&G海洋センター艇庫

【評価】

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準
老朽化状況	C	S 建築後の経過年数 32年>30
バリアフリー状況	B	段差対応あり/多目的トイレあり
稼働率	C	50>1.6 (%)
1日当たりの利用者数	C	40≤60≤60 (1日当たりの利用者数 32.5人)
コスト状況	B	利用者1人当たりのコスト 663円/人

【方向性】継続

カヌー等を格納する施設であるため、当面倉庫機能として継続します。また、ソフト面で各種教室の定期開催について検討します。

【今後見込まれる整備事業・実施時期】

前期（2021年～2025年）	後期（2026年～2030年）
浮き桟橋設置工事	

34 （仮称）上野運動公園サブグラウンド

【方向性】新設

上野運動公園プール跡地に、2021（令和3）年開催の国民体育大会時のウォーミングアップ会場として利用できるサブグラウンドを整備します。国民体育大会終了後は、ウォーミングアップスペースを残しつつ、多様なスポーツニーズに対応するための施設として整備します。

4 計画の推進にあたって

(1) 計画の進行管理及び推進

本計画の進行において、施設別方針の変更や、具体化する計画の内容に修正・変更・追加等があった場合は見直しを図り、スポーツ推進審議会等での管理による進捗を図ります。また、伊賀市の描く行政分野の施策・事業全体の状況も勘案しながら柔軟かつ着実な計画の推進をはかります。

(2) 「生涯スポーツ都市宣言」に対応した施策の展開

伊賀市では、2017（平成29）年2月に「生涯スポーツ都市」を宣言し、今後さらに進む高齢化社会において、市民の健康増進や生きがいづくりの観点からも、「ウォーキング」や「グラウンド・ゴルフ」、「ボッチャ」をはじめ、「軽スポーツ」を推進することとしています。

様々な競技スポーツだけでなく、軽スポーツ・生涯スポーツも含めたあらゆるスポーツを推進するために、学校開放事業を展開するための市内の小中学校施設も考慮することとします。

また、2019（令和元）年8月にスポーツ庁が示した「スポーツ実施率向上のための中長期的な施策」を参考にし、施設の利用率が高まるよう、ライフステージに応じた庁内横断した部署の連携の中、スポーツ活動の推進や利用団体等からアイデアを募るなど、施設の利用促進策についても検討します。

(3) 公民連携の推進

行政と民間事業者が協働で公共サービスの提供等を行う「公民連携」は、これまで自治体が単独で取り組んできた分野に、民間の知恵やアイデア、資金や技術、ノウハウを取り入れ、住民サービスの向上や業務効率のアップ、地域経済の活性化などをはかるものです。具体的にはPFI事業をはじめ、指定管理者制度、公設民営、包括的民間委託、自治体業務のアウトソーシング、ネーミングライツ、定期借地活用などの様々な手法があり、今後、スポーツ施設の安定した運営や財源確保等において公民連携の手法を推進します。

資料

伊賀市生涯スポーツ都市宣言

宣言文

スポーツは、心と体の健康を育むとともに、人と人との交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るうえで重要な役割を果たしています。私たち市民一人ひとりが、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進するため、ここに「生涯スポーツ都市」を宣言します。

- 一 スポーツに親しみ 健康な心身をつくります
- 一 スポーツを楽しみ 思いやりとふれあいの輪を広げます
- 一 スポーツを通して 明るく活力ある伊賀市をつくります

伊賀市生涯スポーツ都市宣言 説明文

少子高齢化社会を迎え、人々の価値観やライフスタイルが多様化する今日において、スポーツは、人生をより健康で充実したものにするために欠くことができないものとして、その重要性がますます高まっています。

伊賀市は、古くから伊賀流忍者の里であり、現在健康づくりの忍にん体操から、スポーツ・レクリエーション、競技スポーツ、武道に至るまで、さまざまなスポーツが盛んに行われています。

2018（平成30）年には「2018 彩る感動東海総体」（平成30年度全国高等学校総合体育大会）、2021（平成33）年には「三重とこわか国体」（第76回国民体育大会）が伊賀市で開催されることを契機に、生涯スポーツ都市宣言を行ない、市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ都市の実現に向けて、スポーツの持つ可能性を最大限に活かし、生涯にわたってスポーツを「する」、「見る」、「支える」ことで、人と人とのつながりを育み、健康で明るい伊賀市を目指します。

(5) スポーツ・レクリエーション施設

スポーツ・レクリエーション施設は、屋内スポーツ施設15,035㎡、屋外スポーツ施設1,324㎡、観光・レクリエーション施設3,767㎡、商業施設8,854㎡、合計28,980㎡を保有しており、公共施設最適化計画に基づく取組みによって2015（平成27）年度までに延床面積で0.2%の施設を廃止しました。2015（平成27）年度時点の方針は、継続36%、複合化1%、縮小60%、一部縮小3%となっています。

2050（平成62）年までのライフサイクルコスト（LCC）は平均約5億円/年、内訳は維持管理経費が約2億円、大規模改修費が約2億円、建替え費が約1億円となっています。2020（平成32）年度頃に大規模改修が、2050（平成62）年度頃に建替えが集中するため、約6億円/年から約12億円/年のLCCがかかります。

なお、これまでのスポーツ・レクリエーション施設の最適化によって、2050（平成62）年までの36年間に約1億円（平均約0.03億円/年）のLCCの節減効果を見込んでいます。

図 スポーツ・レクリエーション施設の延床面積の構成比と施設ごとの方向性

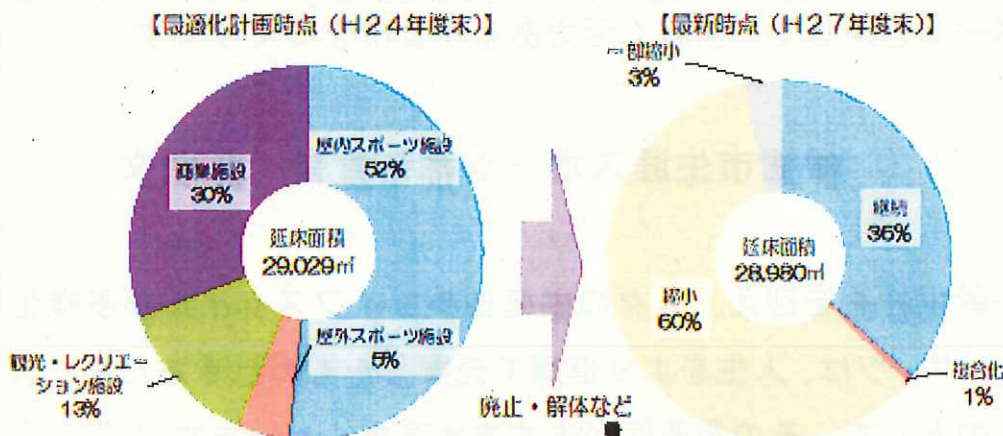


図 スポーツ・レクリエーション施設のライフサイクルコスト

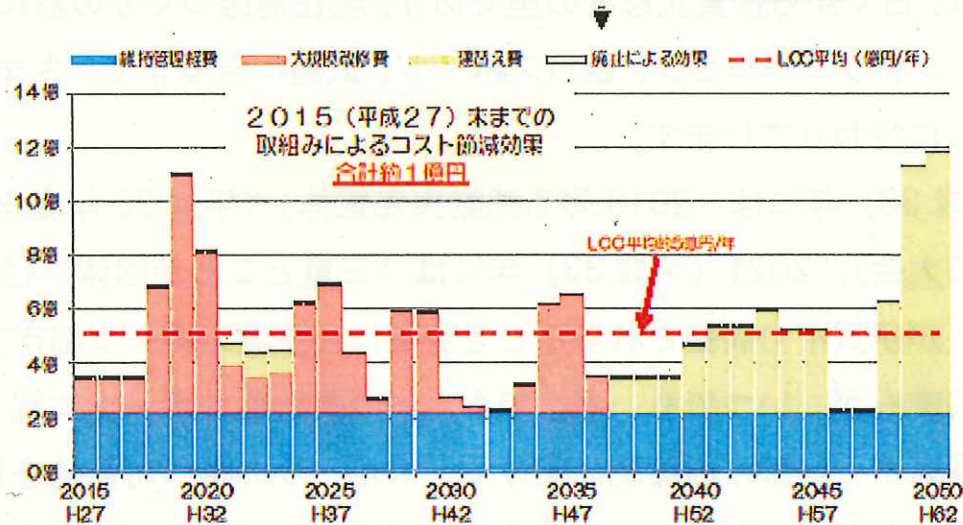
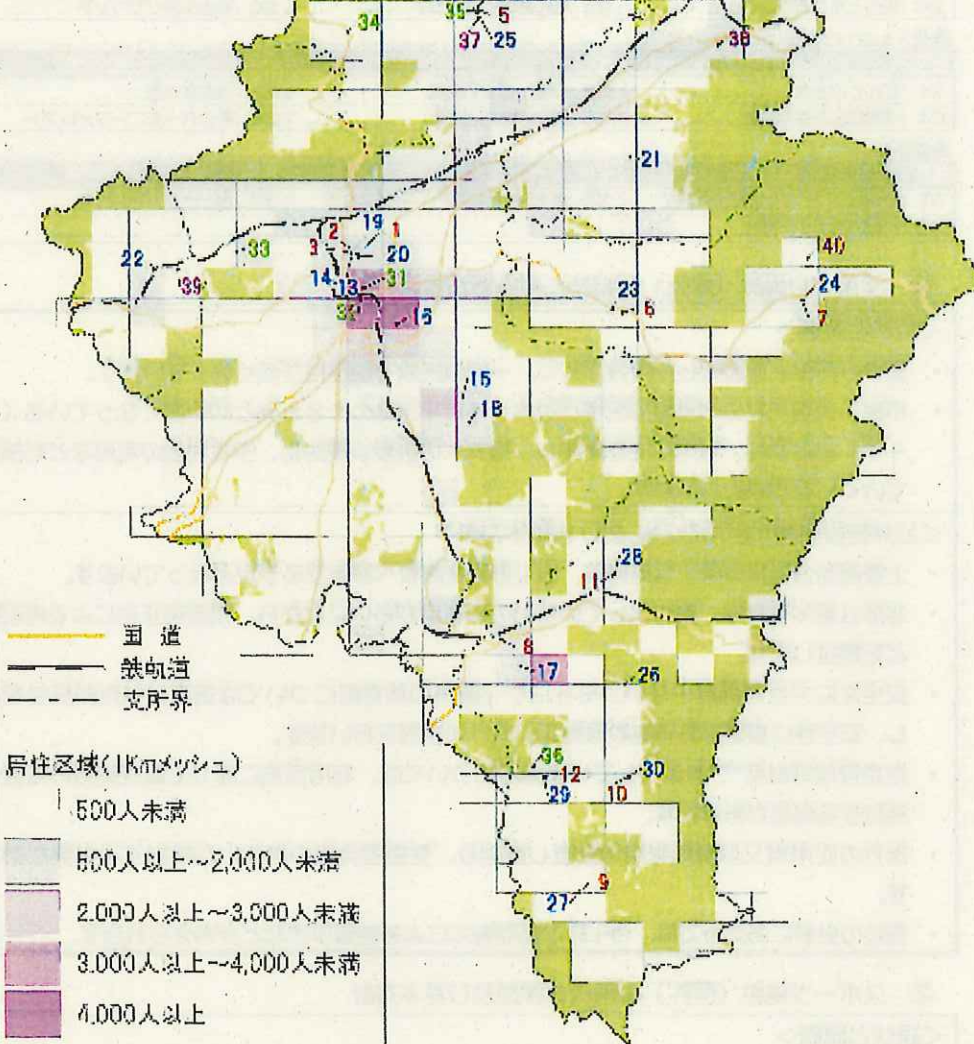


図 スポーツ・レクリエーション施設の配置状況

用途（中分類）

- ・屋内スポーツ施設
- ・屋外スポーツ施設
- ・観光・レクリエーション施設
- ・商業施設



屋内スポーツ施設

番号	施設名称	番号	施設名称	番号	施設名称
1	上野運動公園スポーツセンター	2	上野運動公園体育館	3	伊賀上野武道館
4	阿山B&G海洋センター	5	阿山第1運動公園屋内ゲートボール	6	大山田B&G海洋センター
7	大山田東体育館	8	北郷公園体育館	9	西山南尾体育館
10	西山児童屋内体育施設	11	西山上浮体育館	12	西山南妻体育館

屋外スポーツ施設

番号	施設名称	番号	施設名称	番号	施設名称
13	上野運動公園プール	14	上野運動公園テニスコート	15	ゆめが丘テニスコート
16	上野緑ヶ丘テニスコート	17	青山テニスコート	18	ゆめが丘多目的広場
19	上野運動公園陸技場	20	上野運動公園野球場	21	いがまちスポーツセンター
22	馬ヶ敷運動広場	23	大山田せせらぎ運動公園	24	大山田東グラウンド
25	青山第2運動公園	26	青山グラウンド	27	青山南尾グラウンド
28	青山上俣グラウンド	29	青山博愛グラウンド	30	青山久持グラウンド

観光・レクリエーション施設

番号	施設名称	番号	施設名称	番号	施設名称
31	たんじり会館	32	伊賀・信楽古窯館	33	岩倉峠公園
34	伊賀焼伝統産業会館	35	青山ふるさと森	36	青山ハーモニーフォレスト

商業施設

番号	施設名称	番号	施設名称	番号	施設名称
37	道の駅あやま（阿山交差点北側施設）	38	道の駅いが伊賀サービスエリア	39	馬ヶ敷ふれあいの里
40	伊賀の国大山回遊駅				

① スポーツ施設（屋内）の現状と課題及び基本方針

＜現状と課題＞

- ・ 築30年以上を経過した施設が多く、一部の施設で耐震性が低くなっています。
- ・ 市民一人当たりの体育館の面積が県内14市平均比の135%とやや多くなっている（9ページ）ことから、利用状況を勘案し、地元への譲渡や集約化、学校開放の利用などを検討していくことが求められます。

＜公共施設最適化計画などにおける基本方針＞

- ・ 上野運動公園体育館や弓道場は、旧上野商業高校へ移転する予定となっています。
- ・ 北部公園体育館は、老朽化しているものの利用が多いことから、規模適正化による再配置などを検討します。
- ・ 安全性に大きな課題のないコミュニティ圏域の体育館については譲渡又は売却貸付を検討し、安全性に課題のある施設は廃止に向けた検討を行います。
- ・ 指定管理者制度^{※26}を活用している施設については、利用実態に応じて適宜契約の見直しを検討する必要があります。
- ・ 現行の使用料又は減免利用の見直しを図り、受益者負担の適正化を検討する必要があります。
- ・ 施設の更新にあたっては、PFIなど民間資本による整備手法などが考えられます。

② スポーツ施設（屋外）の現状と課題及び基本方針

＜現状と課題＞

- ・ 市内に複数あるテニスコートやグラウンド、プールなどは、類似・重複施設などの解消を検討していくことが求められます。

＜公共施設最適化計画などにおける基本方針＞

- ・ 機能別に利用圏域区分による施設の位置づけを明確にするとともに、近隣施設の状況、市全体のバランス、民間の類似施設のバランス、利用状況、老朽度などを総合的に検討し、機能

^{※26} 指定管理者制度とは、これまで公共団体や第三セクターに限られていたハコモノなどの管理を、民間企業やNPOなどに委ねることを可能にした制度です。

移転など適正配置を図ります。

- ・ 地域の利用者に限定されているコミュニティ圏域のグラウンドについては、公の施設としての用途を廃止のうえ、譲渡又は売却貸付などを検討します。
- ・ 市内に複数あるテニスコートやグラウンドなどは、学校開放による施設利用を視野に入れ、機能ごとに今後のあり方を検討します。

③ 観光・レクリエーション施設の現状と課題及び基本方針

<現状と課題>

- ・ 市役所本庁舎の移転に伴う、まちなかの賑わい創出に向けた周辺施設などの具体的な方針を策定していくことが求められます。

<公共施設最適化計画などにおける基本方針>

- ・ 収益性向上や多様な活用が見込める施設については、施設の譲渡を含め民営化を進めています。
- ・ 耐震性が無く、老朽化している施設については、他施設への機能移転を検討します。
- ・ 来館者数の増加に向けた取組みや、現行の使用料の見直しを図り、受益者負担の適正化を検討します。
- ・ 第2期中心市街地活性化基本計画などに基づき、上野地区の観光施設については、文化施設との連携による回遊性の向上など、周辺施設と一体で観光戦略を検討します。
- ・ 2016（平成28）年3月に、伊賀市の賑わい創出検討協議会から提出された「伊賀市の賑わい創出ランドデザイン」に基づき、具体的方針を策定します。

④ 商業施設の現状と課題及び基本方針

<現状と課題>

- ・ 温泉施設は、民間事業者の参入などの影響により、利用者数の減少傾向が続いていることから、収支改善や利用者の向上などの経営改善が求められます。
- ・ 道の駅については、独立採算が可能となるような運営が求められます。

<公共施設最適化計画などにおける基本方針>

- ・ 温泉施設については、市の財政負担軽減を図ることを考慮し、売却又は貸付などを含めた縮小の方向性について検討しています。
- ・ 収益性向上や多様な活用が見込める施設については、施設の譲渡を含め民営化を進めています。

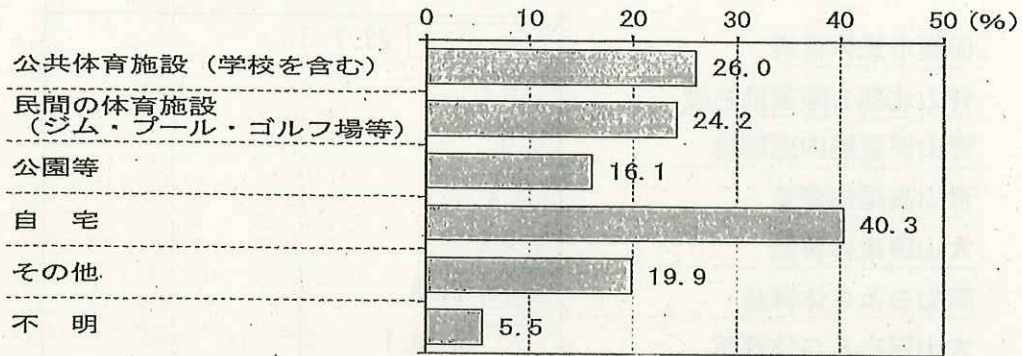
伊賀市公共施設最適化計画（抜粋）

表 対象施設の方向性と用途別目標及び用途別基本方針④

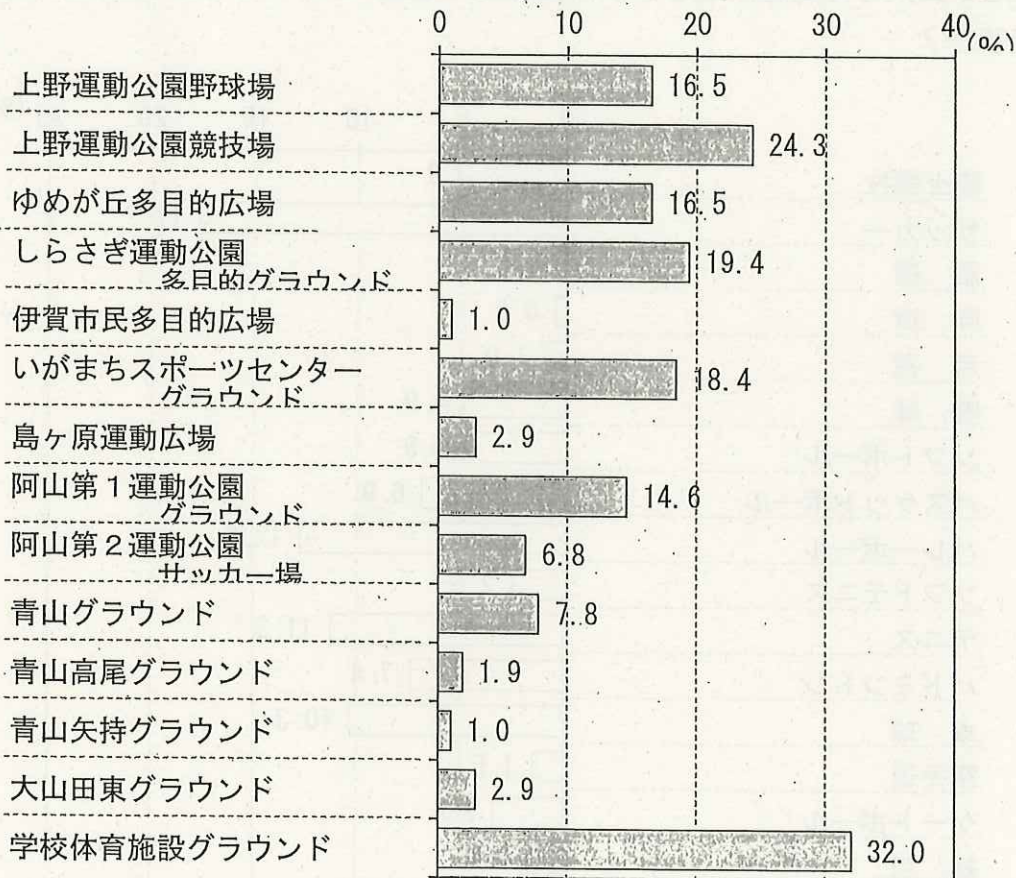
施設の種類		施設名称	延床面積	建築年次	所有者	用途ごとの区分	現在の用途区分	用途別面積	目標達成率	目標達成後の用途区分
大分類	中分類									
屋内スポーツ施設	上	上野運動公園スポーツセンター	481㎡	1973年度	国庫手定	体育				
	上	上野運動公園体育館	1,889㎡	1980年度	国	体育				
	上	伊賀上野運動場	1,472㎡	1983年度	国	体育				
	伊	伊賀市市民体育センター	2,654㎡	1980年度	市	体育				
	伊	上野運動公園	1,452㎡	1983年度	市	体育				
	伊	上野運動公園	1,452㎡	1983年度	市	体育				
	人	人山市民体育館	2,594㎡	1988年度	市	体育	1,009㎡	52%	7,230㎡	
	伊	伊賀市民体育館	823㎡	1984年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	824㎡	1983年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	741㎡	1983年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	572㎡	1983年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	742㎡	1983年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	787㎡	1981年度	市	体育				
	<p>・安全性に大きな課題のないコミュニティ型の体育館については、撤去又は買収廃止する。安全性に課題のある施設は、廃止に向けた検討を行う。</p> <p>・指定管理者運営を希望している施設については、利用実態に基づいて運営改善の見直しを検討する。</p> <p>・現行の用途区分は有効利用の見直しを目的、受益者負担の軽減化を検討する。</p> <p>・施設の更新にあたっては、FPIなどの民間資本による運営手法などを検討する。</p> <p>・老朽化している上野運動公園市民体育館など、上野運動公園の体育館へ移転させる。</p> <p>・老朽化しているものの、利用が良好な市民体育館は、撤去禁止による再整備などを検討する。</p>									
スポーツレクリエーション施設	上	上野運動公園プール	0㎡	1980年度	-	体育				
	上	上野運動公園	36㎡	1980年度	-	体育				
	上	テニスコート	0㎡	1987年度	-	体育				
	上	伊賀市民体育センター	0㎡	1987年度	-	体育				
	上	上野運動公園テニスコート	0㎡	1986年度	-	体育				
	伊	伊賀市民体育センター	0㎡	-	-	体育				
	伊	伊賀市民体育センター	121㎡	2000年度	市	体育				
	伊	上野運動公園市民体育館	398㎡	1987年度	国庫手定	体育				
	上	上野運動公園市民体育館	1,171㎡	1983年度	国庫手定	体育				
	伊	市民体育センター	331㎡	1982年度	市	体育	1,373㎡	7%	1,273㎡	
	伊	伊賀市民体育館	0㎡	2007年度	-	体育				
	人	人山市民体育館	100㎡	1981年度	国	体育				
	伊	伊賀市民体育館	0㎡	-	-	体育				
	伊	伊賀市民体育館	0㎡	1983年度	-	体育				
伊	伊賀市民体育館	218㎡	1987年度	市	体育					
伊	伊賀市民体育館	0㎡	-	-	体育					
伊	伊賀市民体育館	0㎡	-	-	体育					
伊	伊賀市民体育館	0㎡	-	-	体育					
伊	伊賀市民体育館	0㎡	-	-	体育					
<p>・個別別利用用途区分による施設の配置づけを明確にするとともに、近隣施設の状況、市全体のバランス、同種の施設全体のバランス、利用状況、老朽度などを総合的に検討し、更新計画など改正案を定める。</p> <p>・地元の利用者による指定されているコミュニティ型のグラウンドについては、他の施設としての用途を廃止のうえ、撤去又は買収を検討する。</p> <p>・市内に現在あるテニスコートやグラウンドなどは、学校関係による施設利用を視野に入れ、個館ごとに今後のあり方を検討する。</p>										
観光レクリエーション施設	上	伊賀市市民体育センター	1,469㎡	1980年度	市	体育				
	上	伊賀市民体育館	211㎡	1977年度	市	体育				
	上	伊賀市民体育館	248㎡	1982年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	483㎡	1983年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	957㎡	1985年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	380㎡	2005年度	市	体育	3,767㎡	72%	1,067㎡	
<p>・収益向上や多様な利用が見込める施設については、施設の更新を含め活性化を進める。</p> <p>・配置が無く、老朽化している施設については、他施設への機能移転を検討する。</p> <p>・来訪者数の増加に向けた取組み、現行の利用者の見直しを目的、受益者負担の軽減化を検討する。</p> <p>・上野地区の観光施設については、文化施設との連携による回遊性の向上など、関連施設と一体で観光取組を検討する。</p>										
高気圧施設	伊	伊賀市民体育館	951㎡	2003年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	680㎡	2005年度	市	体育				
	伊	伊賀市民体育館	4,056㎡	1984年度	市	体育	8,854㎡	81%	1,604㎡	
	人	伊賀市民体育館	3,167㎡	1986年度	市	体育				
<p>・収益向上や多様な利用が見込める施設については、施設の更新を含め活性化を進める。</p>										

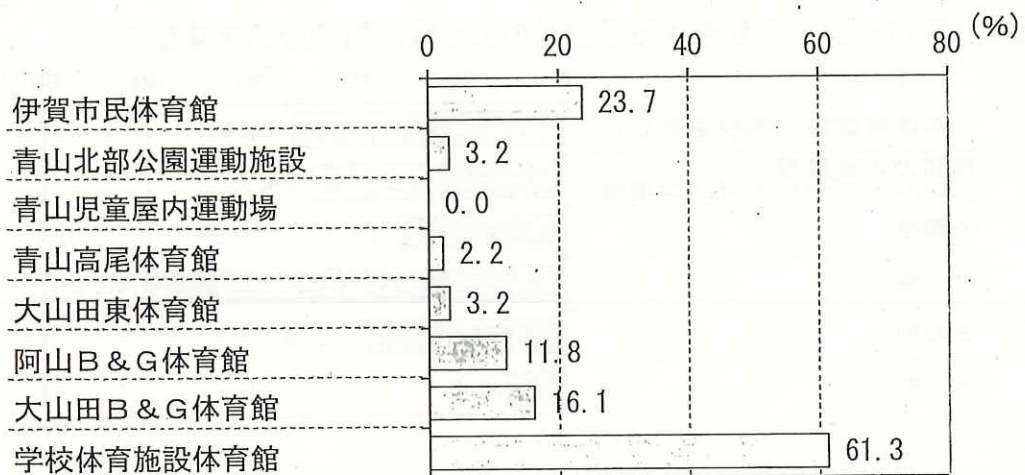
体育施設アンケート（抜粋）

①あなたが、スポーツ・運動をする場合どのような場所で行いますか？

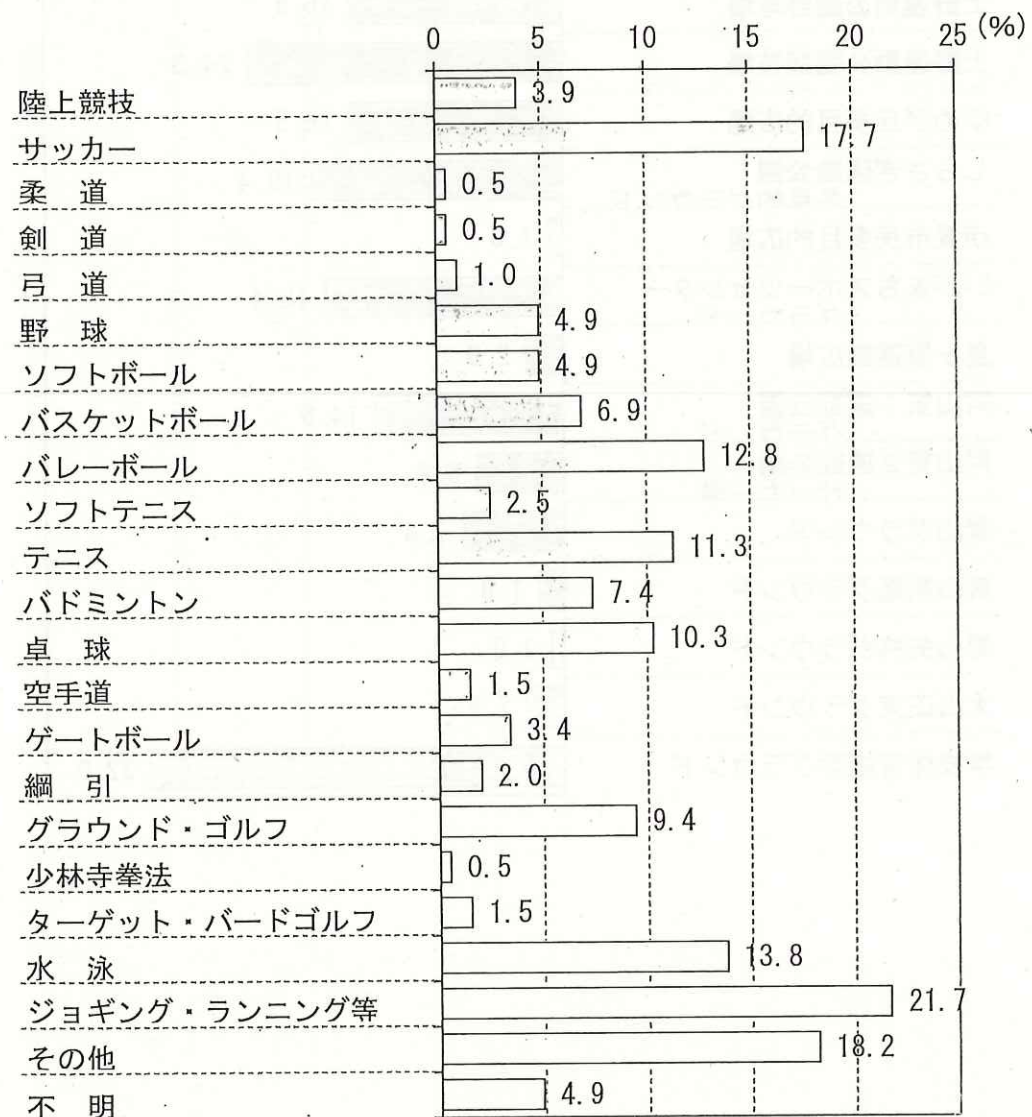


上記①中で利用頻度の高い施設は、どこですか？

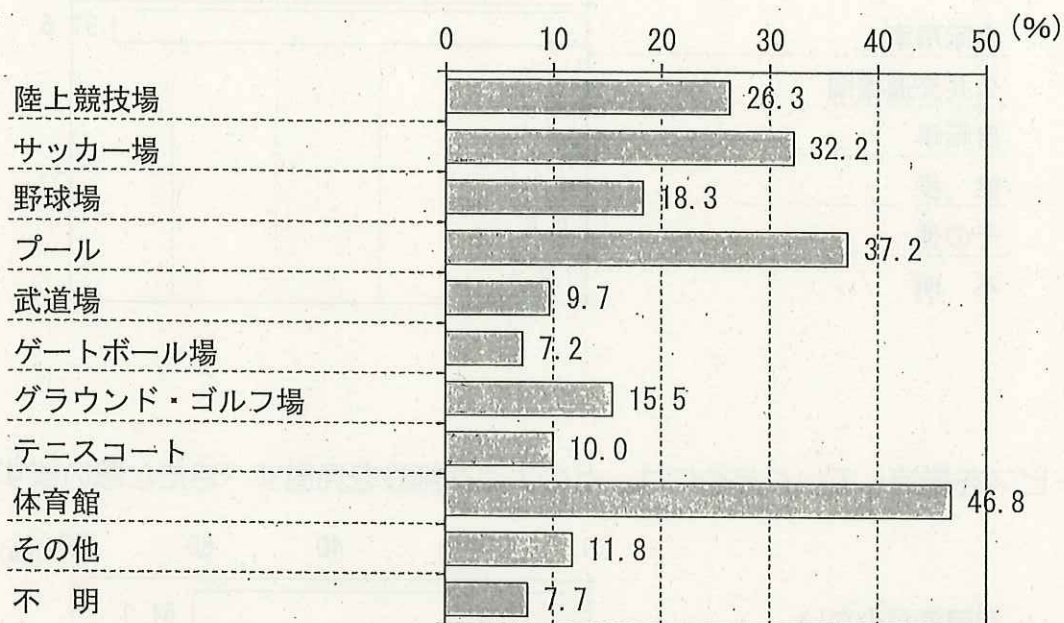




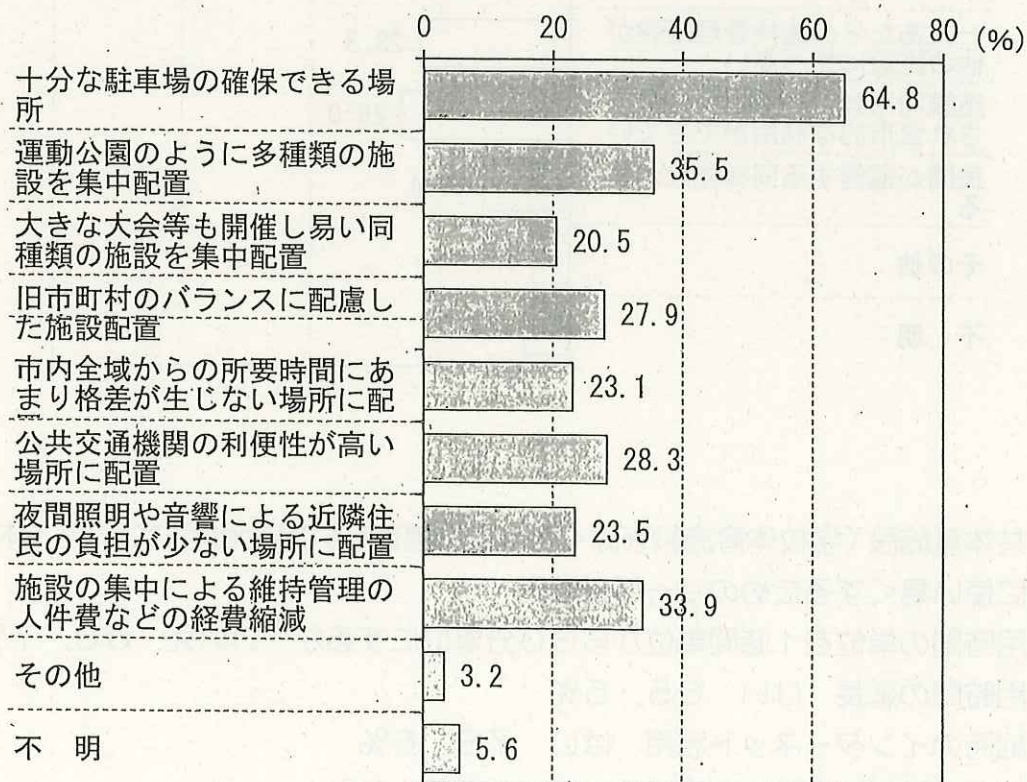
②あなたが公共の体育施設及び学校体育施設で運動・スポーツをする場合、どのような種目を行いますか？



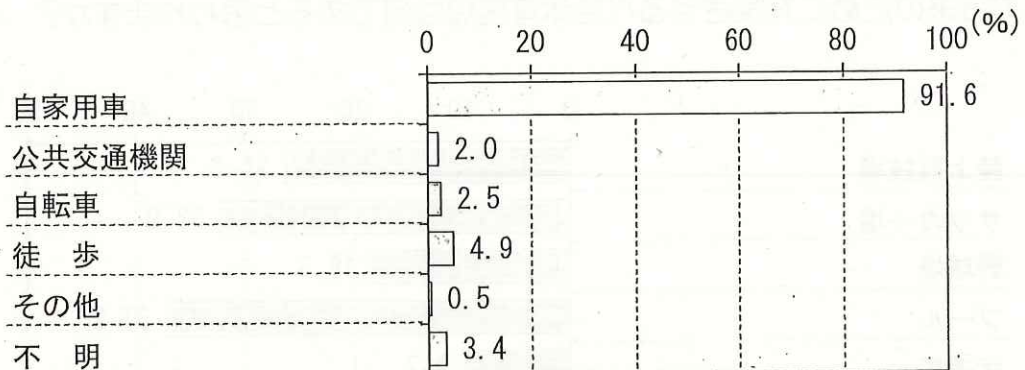
③伊賀市の将来のために充実させるべき体育施設は何であると思われますか？



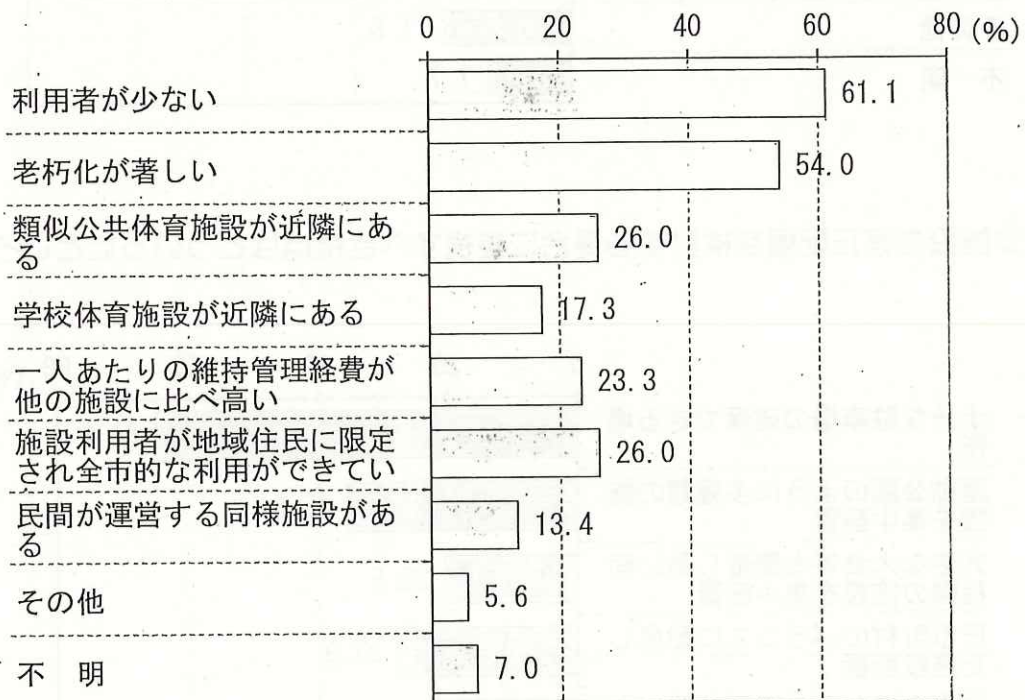
④スポーツ施設の適正配置を検討する場合に重視すべき視点はどこだと思えますか？



⑤あなたが公共体育施設及び学校体育施設を利用する場合の交通手段はなんですか？



⑥サービスを維持していくためには、どのような施設を見直すべきだと思いますか？



⑦公共体育施設（学校体育施設を除く）のより望ましい施設利用について、体育施設面以外で市民に使い易くするためのサービスは？

- ・使用時間の単位を1時間単位から30分単位にするが いいえ 60.7%
- ・使用時間の延長 はい 65.5%
- ・予約時のインターネット利用 はい 78.6%
- ・施設の情報提供をもっと増やす はい 85.8%